

平成 24 年 度

公共用水域及び地下水の
水 質 測 定 計 画

大 阪 府

目 次

1 公共用水域の水質測定計画	1
1 目的	3
2 測定地点及び測定機関	
3 測定期間	
4 測定項目	4
5 測定回数	5
6 試料の採取等	6
7 測定方法等	
8 環境基準値及び評価方法	
9 測定結果の報告	
10 その他	
(図1-1) 河川の水質測定水域区分	7
(図1-2) 河川の各水域の水質測定地点図	8
(図1-3) 大阪湾水域の水質・底質測定地点図	14
(別表1-1) 測定地点及び測定機関総括表	15
(別表1-2) 測定地点、測定回数一覧表(河川)	16
測定地点、測定回数一覧表(海域)	22
(別表1-3) 測定方法、環境基準値等一覧表	24
(別表1-4) 環境基準値及び評価方法	27
(別表1-5) 環境基準の水域類型指定一覧表	30
2 地下水質測定計画	33
1 目的	35
2 調査の区分	
3 測定地点及び測定機関	
4 測定期間	
5 測定項目	36
6 測定回数	
7 測定方法	
8 試料の採取等	
9 環境基準値及び評価方法	
10 測定結果の報告	37
11 その他	
(図2-1) 概況調査(定点方式)測定地区図	38
(図2-2) 概況調査(ローリング方式)測定地点図	39
(図2-3) 継続監視調査測定地区図	40
(別表2-1) 測定地点数及び測定機関総括表	41
(別表2-2) 測定地点一覧表(概況調査(定点方式))	42
(別表2-3) 測定地点一覧表(概況調査(ローリング方式))	43
(別表2-4) 測定地点一覧表(継続監視調査)	45
(別表2-5) 測定方法、環境基準値等一覧表	48

1 公共用水域の水質測定計画

平成24年度公共用水域の水質測定計画

1 目的

この水質測定計画は、水質汚濁防止法第16条の規定により、大阪府域の公共用水域の水質を常時監視するために行う水質等の測定について、測定する項目、測定の地点及び方法その他必要な事項を定めるものとする。

2 測定地点及び測定機関

測定地点は、河川については、原則として、利水状況を考慮しつつ、河川の汚濁状況を総合的に把握できる流末等に設定することとし、また、海域については、原則として、水域の地形、海潮流、主要な汚染源の位置、河川水の流入状況等を考慮し、水域の汚濁状況を総合的に把握できるよう設定することとする。なお、水質測定地点、底質測定地点及び測定機関は、別表1-1及び別表1-2のとおりとする。

(1) 水質測定地点

河川:105河川 144地点(環境基準点 94地点、準基準点 50地点)

海域:大阪湾海域 22地点(環境基準点 15地点、準基準点 7地点)

(2) 底質測定地点

河川:49地点

海域:15地点(12地点は水質測定の実環境基準点と、2地点は準基準点と重複)

○ 準基準点は、水域の状況をより的確に把握するため、環境基準点を補完するとともに、人の健康の保護に関する環境基準の評価を行う。

3 測定期間

測定期間は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までとする。

4 測定項目

原則として、人の健康の保護に関する環境基準項目、生活環境の保全に関する環境基準項目及び排水基準や水域の特性把握に必要な項目として、次表のとおり設定することとする。

(1) 水質測定項目

	河 川	海 域
ア 人の健康の保護に関する項目(健康項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・カドミウム・全シアン・鉛・六価クロム ・砒素・総水銀・アルキル水銀・PCB ・ジクロロメタン・四塩化炭素 ・1,2-ジクロロエタン・1,1-ジクロロエチレン ・シス-1,2-ジクロロエチレン ・1,1,1-トリクロロエタン・1,1,2-トリクロロエタン ・トリクロロエチレン・テトラクロロエチレン ・1,3-ジクロロプロペン・チウラム・シマジン ・チオベンカルブ・ベンゼン・セレン ・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 ・ふっ素・ぼう素・1,4-ジオキサン <p>[ただし、アルキル水銀については総水銀が検出された時に限る。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カドミウム・全シアン・鉛・六価クロム ・砒素・総水銀・アルキル水銀・PCB ・ジクロロメタン・四塩化炭素 ・1,2-ジクロロエタン・1,1-ジクロロエチレン ・シス-1,2-ジクロロエチレン ・1,1,1-トリクロロエタン・1,1,2-トリクロロエタン ・トリクロロエチレン・テトラクロロエチレン ・1,3-ジクロロプロペン・チウラム・シマジン ・チオベンカルブ・ベンゼン・セレン ・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 ・1,4-ジオキサン <p>[ただし、アルキル水銀については総水銀が検出された時に限る。]</p>
イ 生活環境の保全に関する項目(生活環境項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・水素イオン濃度(pH)・溶存酸素量(DO) ・生物化学的酸素要求量(BOD) ・化学的酸素要求量(COD;酸性法) ・浮遊物質(SS)・大腸菌群数(E-Coli) ・全窒素(T-N)・全りん(T-P)・全亜鉛 	<ul style="list-style-type: none"> ・水素イオン濃度(pH)・溶存酸素量(DO) ・化学的酸素要求量(COD;酸性法、アルカリ性法、ろ過酸性法)・大腸菌群数 ・ノルマルヘキサン抽出物質(油分) ・全窒素(T-N)・全りん(T-P)・全亜鉛
ウ 特殊項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ノルマルヘキサン抽出物質(油分) ・フェノール類・銅・溶解性鉄 ・溶解性マンガン・全クロム ・陰イオン界面活性剤・亜硝酸性窒素 ・硝酸性窒素・アンモニア性窒素 ・りん酸性りん 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェノール類・銅・溶解性鉄 ・溶解性マンガン・全クロム ・陰イオン界面活性剤・亜硝酸性窒素 ・硝酸性窒素・アンモニア性窒素 ・りん酸性りん・プランクトン数・クロロフィルa ・懸濁物質(浮遊物質質量) ・懸濁物質の強熱減量・濁度
エ 特定項目	・トリハロメタン生成能	
オ 要監視項目	<ul style="list-style-type: none"> ・クロロホルム ・トランス-1,2-ジクロロエチレン ・1,2-ジクロロプロパン・p-ジクロロベンゼン ・イソキサチオン・ダイアジノン ・フェニトロチオン・イソプロチオラン ・オキシ銅・クロロタロニル・プロピザミド ・EPN・ジクロロボス・フェノブカルブ ・イプロベンホス・クロロニトロフェン ・トルエン・キシレン ・フタル酸ジエチルヘキシル・ニッケル ・モリブデン・アンチモン・塩化ビニルモノマー ・エピクロロヒドリン・全マンガン ・ウラン・フェノール・ホルムアルデヒド 	
カ その他項目	<ul style="list-style-type: none"> ・気温・水温・色相・臭気・透視度 ・塩素イオン・電気伝導率 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温・水温・色相・臭気・透明度 ・塩分・電気伝導率 等

- 特殊項目は、排水基準が定められた項目、「大阪 21 世紀の新環境総合計画」で環境保全目標が定められた項目及び富栄養化関連項目等
- 特定項目は、特定水道利水障害の防止のための水道水源の水質の保全に関する特別措置法(平成6年3月4日法律第9号)に基づく項目
- 要監視項目は、人の健康の保護又は水生生物の保全に関連する項目であるが、公共用水域等における検出状況等からみて、現時点では直ちに環境基準項目とはせず、知見の集積に努めるべき項目

(2) 底質測定項目

	河 川	海 域
ア 健康項目	<ul style="list-style-type: none"> ・総水銀・PCB 	<ul style="list-style-type: none"> ・カドミウム・全シアン・鉛・砒素・総水銀 ・アルキル水銀・PCB
イ 一般項目	<ul style="list-style-type: none"> ・含水率 	<ul style="list-style-type: none"> ・水素イオン濃度・化学的酸素要求量・含水率 ・硫化物・酸化還元電位・強熱減量・全クロム ・ノルマルヘキサン抽出物質(油分)
ウ その他項目	<ul style="list-style-type: none"> ・水深・性状・色相・臭気・泥温 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・水深・性状・色相・臭気・泥温 等

5 測定回数

測定回数は、下表を原則とし、過去の検出状況、利水状況及び発生源の有無等を考慮の上、設定するものとする。

(1) 河川

	測定項目		測定回数
環境基準点	健康項目	P C B 農薬類 上記以外の項目	・年1回以上 ・年1回以上(農薬使用時期に実施) ・年2回以上
	生活環境項目	全窒素・全りん 大腸菌群数 全亜鉛 上記以外の項目	・年4回以上 ・年12回以上(A、B類型のみ) ・年12回以上(水生生物の保全に係る類型のみ) ・年1回以上(その他の地点) ・年12回以上
	特殊項目	全項目	・年1回以上
	特定項目	全項目	・年1回以上(水道利水のある地点)
準基準点	健康項目	全項目	・環境基準点と同様
	生活環境項目	全窒素・全りん 全亜鉛 上記以外の項目(大腸菌群数を除く)	・年2回以上 ・年4回以上(水生生物の保全に係る類型のみ) ・年1回以上(その他の地点) ・年4回以上
	特殊項目	全項目	・地域の実情に応じ、必要と考えられる項目について
	特定項目	全項目	年1回以上。

- 通日測定は、水質管理上重要かつ水質の日間変動の大きな地点で、生活環境項目について年1回以上(各1日について2時間間隔で13回採水分析)。
- 河川の底質は、海域に直接流入する主要な河川において年1回以上。
- 要監視項目は、地域の実情に応じ、必要と考えられる項目について年1回以上。

(2) 海域

	測定項目		測定回数
環境基準点	健康項目	P C B 上記以外の項目	・年1回以上 ・年2回以上
	生活環境項目	大腸菌群数 ノルマルヘキサン抽出物質 全亜鉛 上記以外の項目	・年12回以上(A類型のみ) ・年12回以上(A、B類型のみ) ・年12回以上(水生生物の保全に係る類型のみ) ・年1回以上(その他の地点) ・年12回以上
	特殊項目	全項目	・年1回以上
準基準点	健康項目	全項目	・環境基準点と同様
	生活環境項目	大腸菌群数・ノルマルヘキサン 抽出物質を除く項目 全亜鉛	・年4回以上 ・年4回以上(水生生物の保全に係る類型のみ) ・年1回以上(その他の地点)
	特殊項目	全項目	・地域の実情に応じ、必要と考えられる項目について 年1回以上。

- 海域の底質は、健康項目について年1回以上、一般項目について年2回以上。

測定月は原則として次表のとおりとする。

年間測定回数	測定月
1回	8月
2回	8月、2月
4回	5月、8月、11月、2月
6回	5月、7月、8月、11月、1月、2月
12回	毎月

6 試料の採取等

試料の採取等については、原則として次のとおりとする。

- (1) 試料採取の実施にあたり、健康項目については、水域の水量いかんに関わらず随時、生活環境項目については、水域が通常の状態(河川の場合は低水量以上の流量がある時、海域の場合は小潮時)にある時期とする。
- (2) 流量観測は採水時に実施し、環境基準点で年6回程度、準基準点で年2回程度行う。
- (3) 河川における試料採取は流心で行い、6時間間隔で4回採取し、混合試料とする。ただし、気温、水温及び水素イオン濃度については、個々の試料について測定する。また、次の項目については、午後3時に最も近い採水時の試料について測定する。
なお、流況変動の小さい河川等については、この限りでない。

- ・生活環境項目 (溶存酸素量、大腸菌群数、全亜鉛)
- ・健康項目 (硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素を除く)
- ・特殊項目 (ノルマルヘキサン抽出物質、フェノール類、銅、溶解性鉄、溶解性マンガン、全クロム)
- ・特定項目
- ・要監視項目

海域の場合は、海面下1m層から採水する。また、環境基準点のうち港内3地点を除く12地点については、水深20m未満の場合は海底面上2m層から、水深20m以上の場合は海底面上5m層から採水する。

底泥の採取に当たっては、採取点付近において数箇所より同量採取し、混合試料とする。

- (4) 以上の他、水質調査方法(昭和46年環水管第30号)に準拠する。

7 測定方法等

測定方法及び報告下限値等は、原則として別表1-3のとおりとする。

なお、この方法によらない場合には、測定結果の報告の際に特記するものとする。

8 環境基準値及び評価方法

環境基準値及び評価方法は、別表1-4のとおりとする。

9 測定結果の報告

測定結果は次のとおり大阪府へ報告するものとする。

- (1) 測定結果の報告は、別途指定の様式により行うものとする。
- (2) 健康項目の測定結果で環境基準値を超える値が検出された時は、直ちに報告するものとする。

10 その他

その他、本計画に定めのない事項については、測定機関と協議のうえ定める。

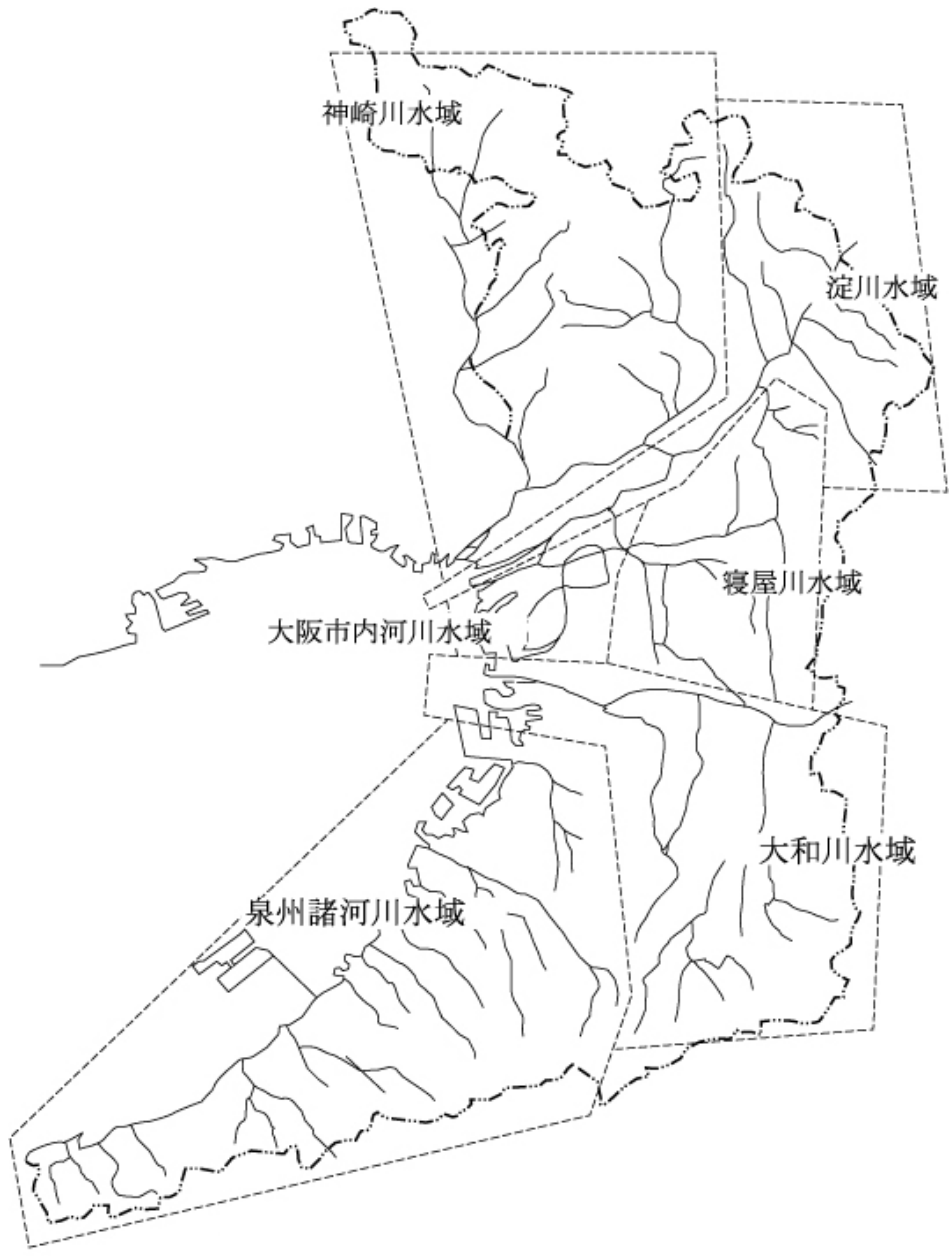


図1-1 河川の水質測定水域区分

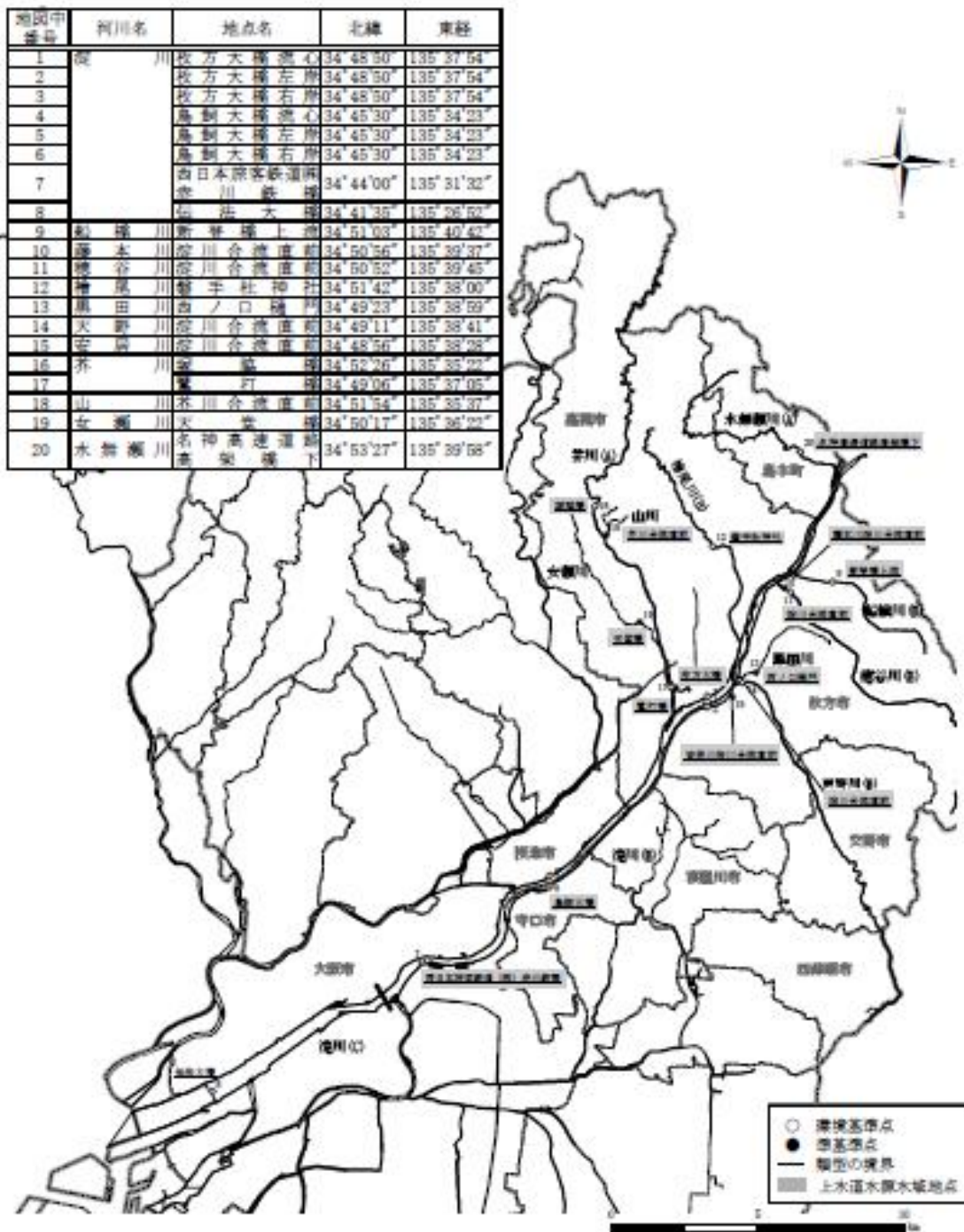


図1-2(1) 淀川水域の水質測定地点図

地図中番号	河川名	地点名	北緯	東経
21	神崎川	小松	34°45'22"	135°32'32"
22		第二関	34°44'11"	135°28'50"
23		神崎	34°43'50"	135°28'49"
24		千船	34°43'38"	135°28'44"
25	左門衛川	坂口	34°43'41"	135°28'47"
26	赤川	神崎川合流直前	34°45'27"	135°30'34"
27	赤川	神崎川合流直前	34°45'19"	135°30'31"
28	赤川	神崎川合流直前	34°44'50"	135°29'42"
29	藤田川	藤田川	34°49'55"	135°38'03"
30	安威川	赤ノ原	34°53'40"	135°33'45"
31		千船	34°49'21"	135°34'49"
32		百高	34°47'15"	135°34'55"
33		新宮	34°45'30"	135°31'52"
34	芥水川	安威川合流直前	34°49'48"	135°34'31"
35	大正川	安威川合流直前	34°46'35"	135°33'47"

地図中番号	河川名	地点名	北緯	東経
36	山田川	安威川合流直前	34°46'21"	135°33'25"
37	千船川	安威川合流直前	34°46'16"	135°32'49"
38	藤田川	中ノ原	34°50'25"	135°33'13"
39	藤田川	藤田	34°51'15"	135°24'54"
40		坂口	34°43'50"	135°28'25"
41		坂口	34°45'40"	135°27'18"
42	美南川	美南町敷水口	34°50'17"	135°28'11"
43		坂口	34°43'50"	135°28'51"
44	合野川	藤田川合流直前	34°50'31"	135°26'27"
45	千船川	藤田川合流直前	34°48'04"	135°27'04"
46		坂口	34°49'10"	135°28'37"
47	田原川	藤田川合流直前	34°56'12"	135°26'33"
48	一宮・大崎川	藤田川合流直前	34°56'21"	135°24'34"
49	山辺川	一宮・大崎川合流直前	34°57'30"	135°24'32"

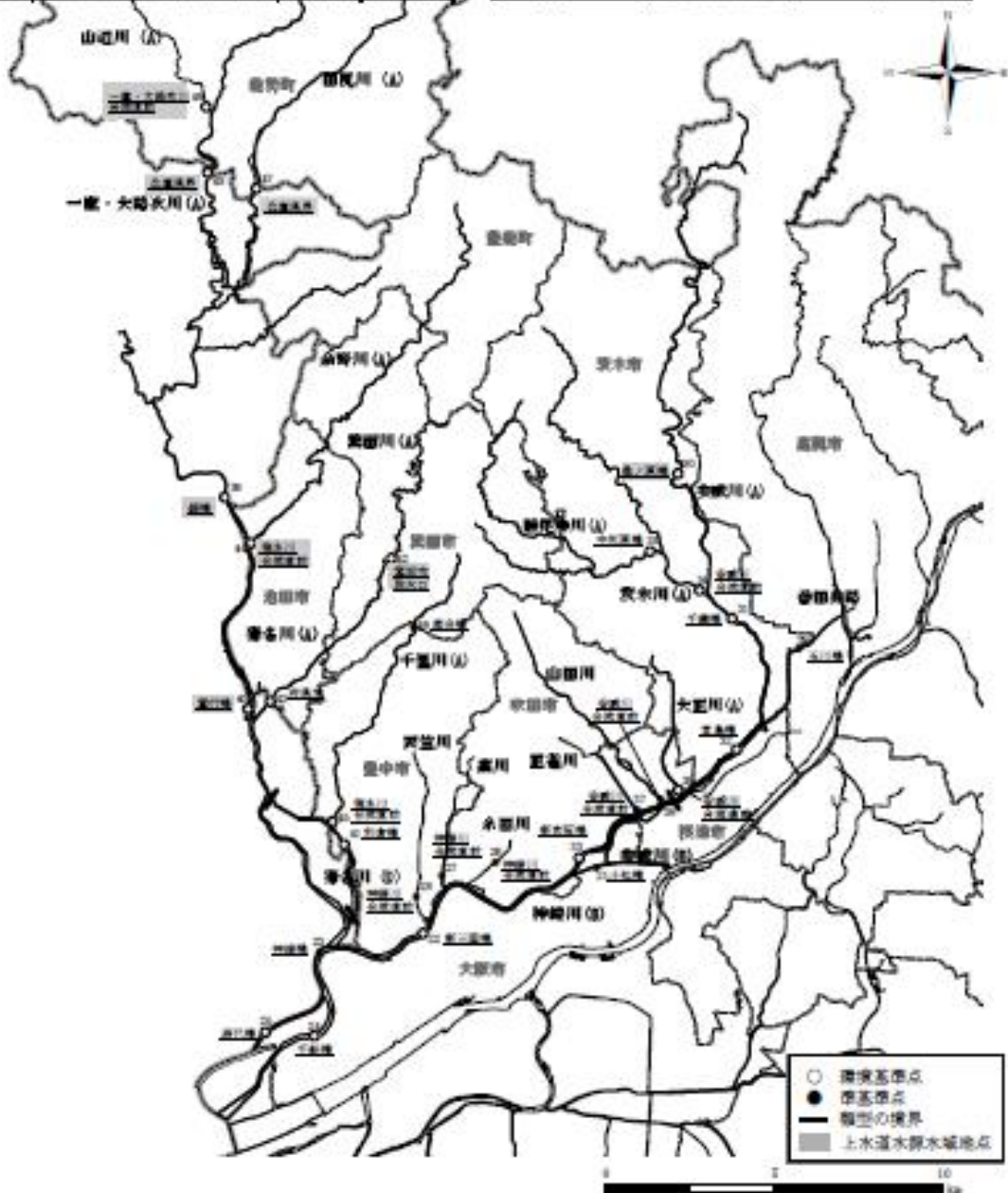


図1-2(2) 神崎川水域の水質測定地点図

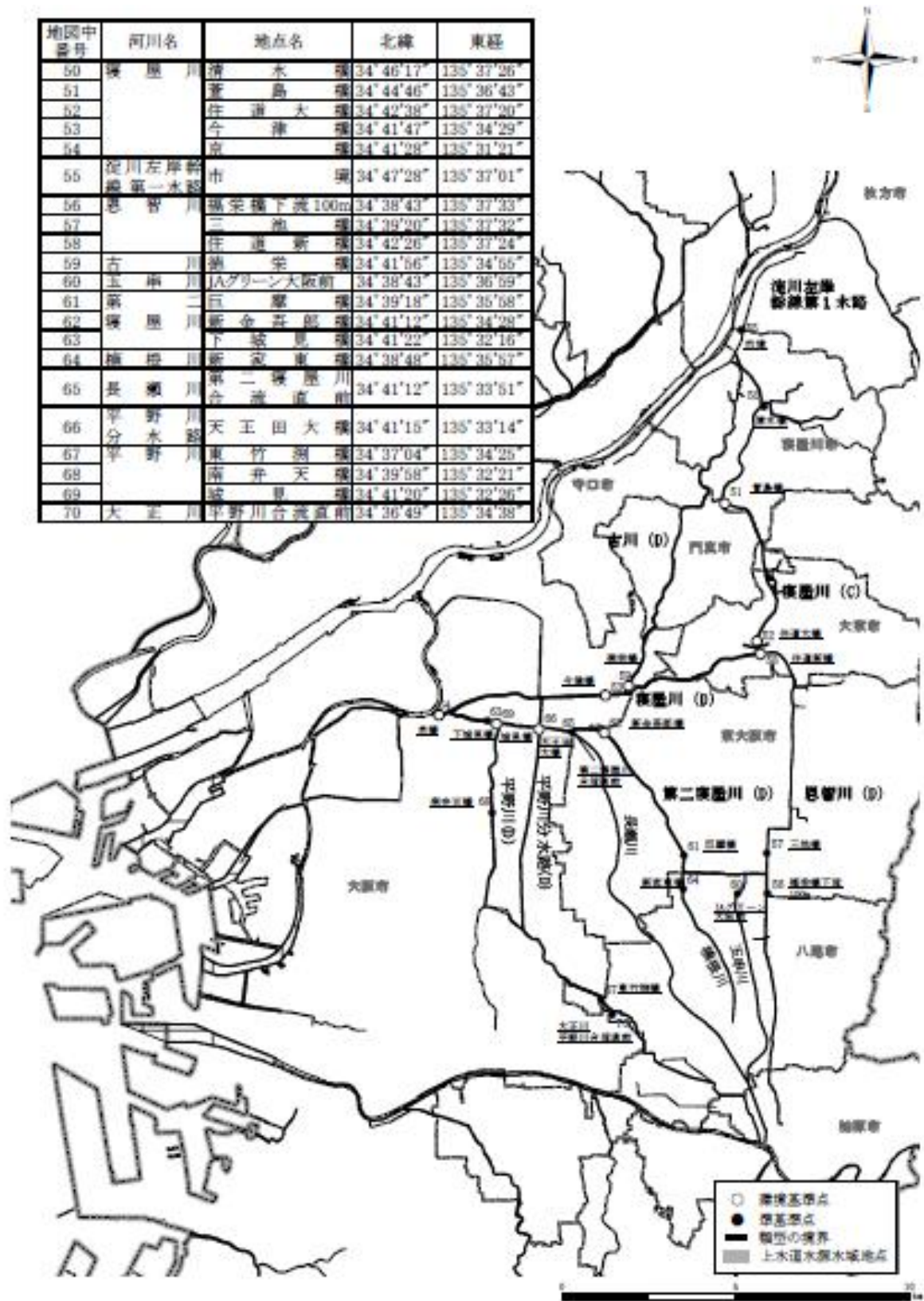


図1-2(3) 寝屋川水域の水質測定地点図

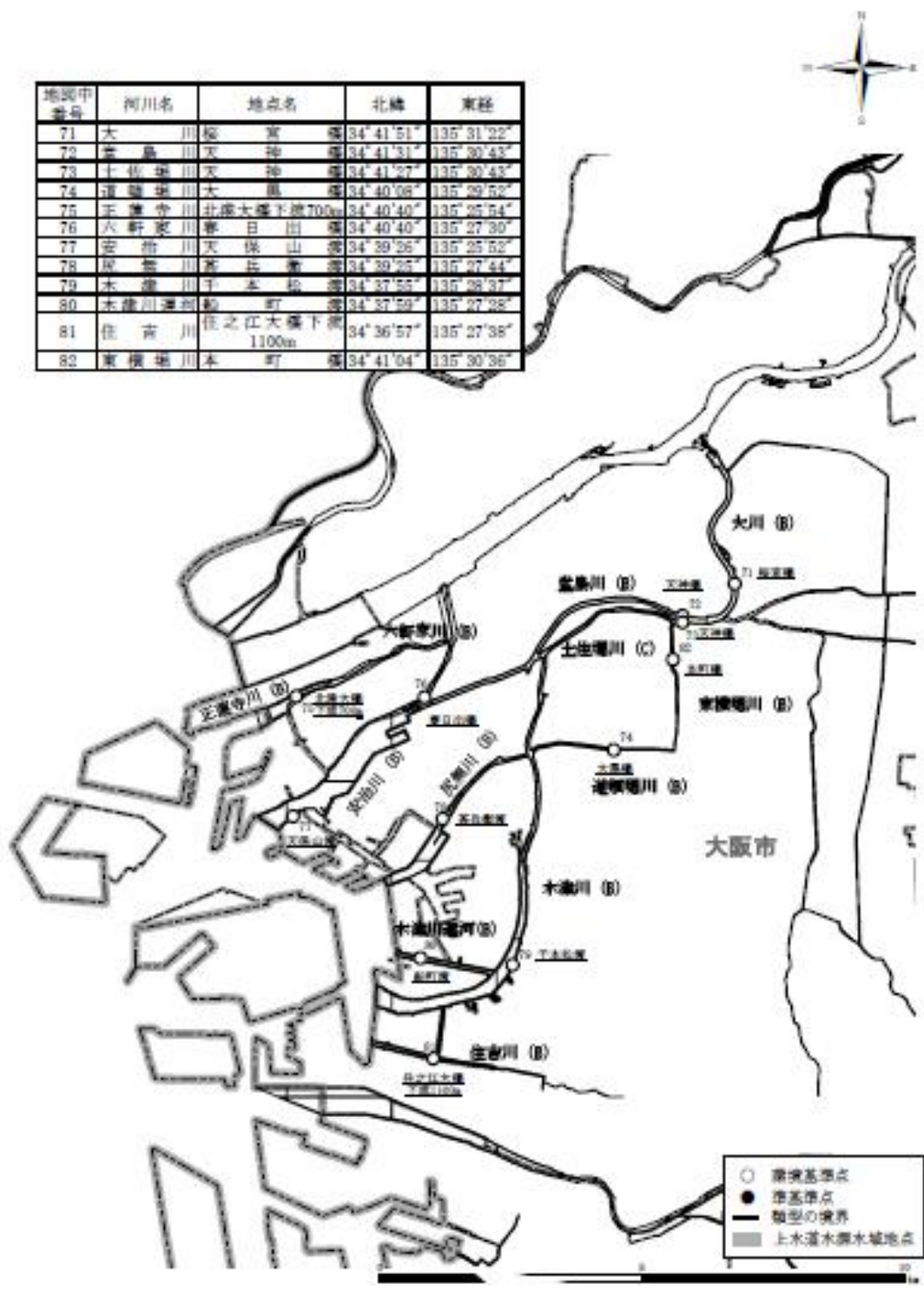


図1-2(4) 大阪市内河川水域の水質測定地点図

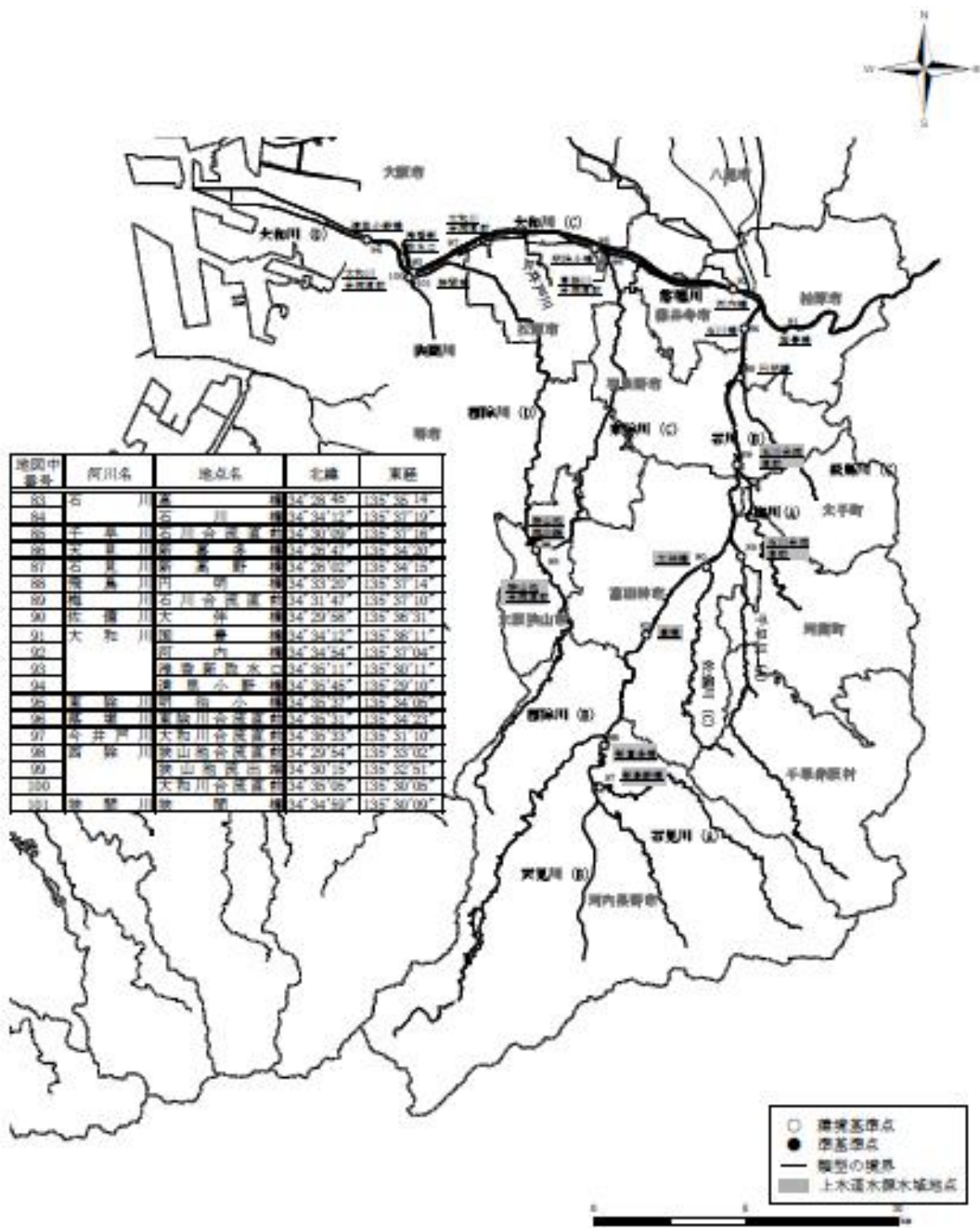


図1-2(5) 大和川流域の水質測定地点図

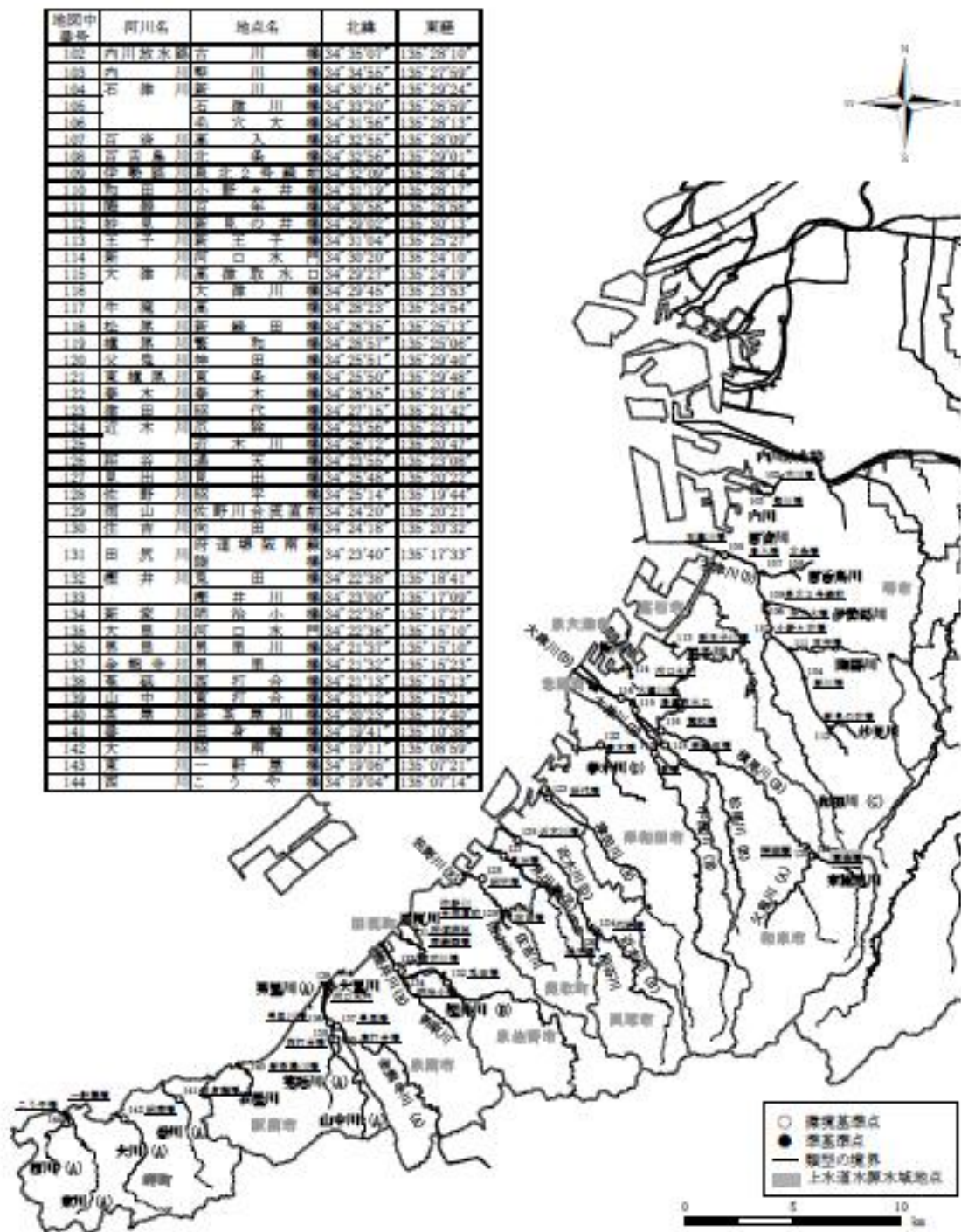


図1-2(6) 泉州諸河川水域の水質測定地点図

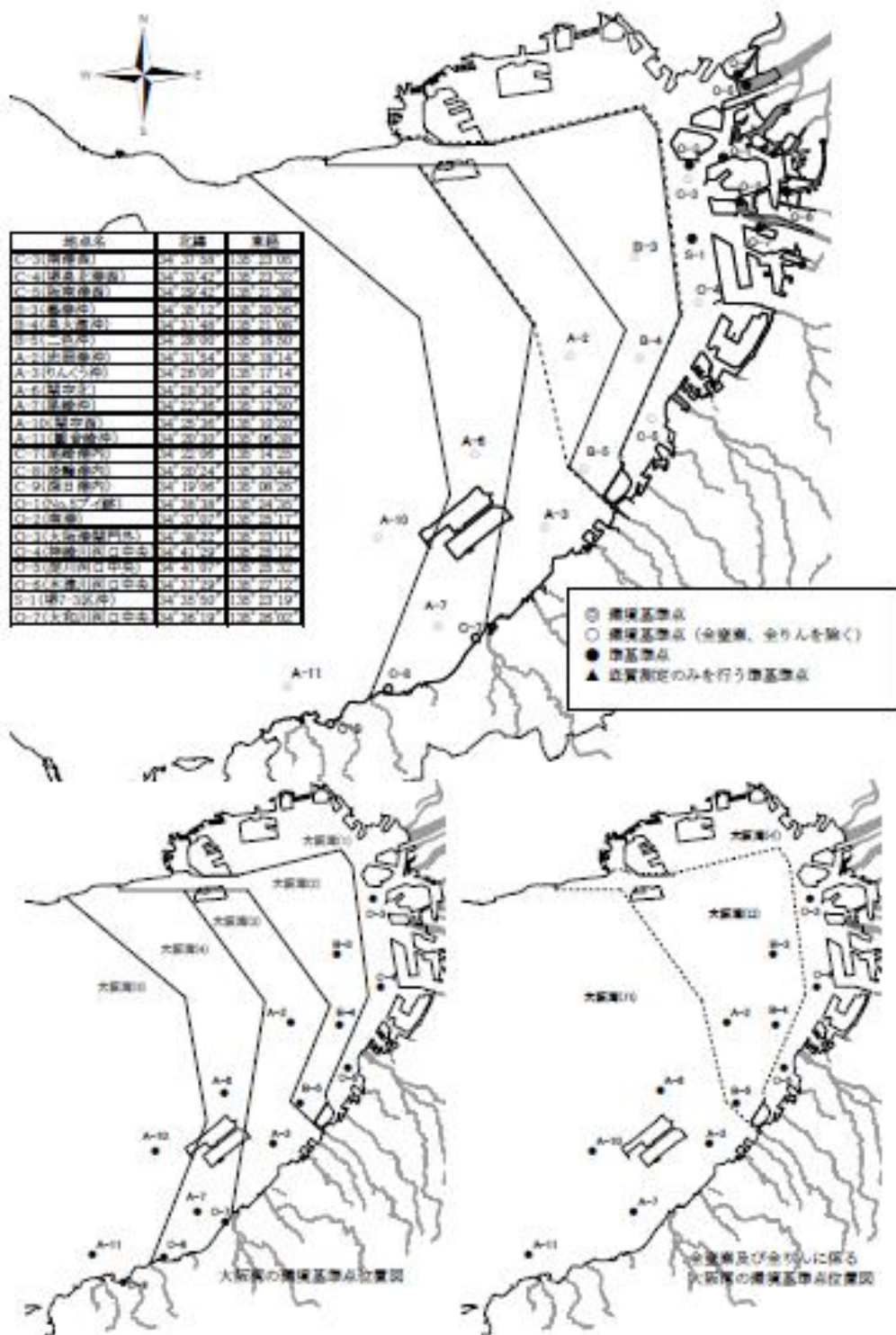


図1-3 大阪湾水域の水質・底質測定地点図

別表 1 - 1 測定地点及び測定機関総括表

測定機関	調査区分	水 質 測 定													底 質 測 定				
	水 域 区 分	河 川												海 域		河 川		海 域	
		淀川	神崎川	寝屋川	大阪市内河川	大和川	泉州諸河川	河川合計											
大阪府	環境基準点	1		10	2				9	20	42	15	28	12					
	準基準点	1	12	2				12	30	57	15	29	3	15					
近畿地方 整備局	環境基準点	9		3				4		16		11							
	準基準点	9	3					5		17		11							
大阪市	環境基準点		1	5	12					18		5							
	準基準点		2	7	12					21	6	5							
堺市	環境基準点							1	2	3		2							
	準基準点							1	9	10	1	2							
岸和田市	環境基準点								2	2		2							
	準基準点								2	2		2							
豊中市	環境基準点		1							1									
	準基準点		3							2	3								
吹田市	環境基準点			3															
	準基準点		3							3	3								
高槻市	環境基準点	2								2									
	準基準点	4	1							3	5								
枚方市	環境基準点	3								3									
	準基準点	6		1	1					4	7								
茨木市	環境基準点		5							5									
	準基準点		5							5									
八尾市	環境基準点																		
	準基準点				5					5									
寝屋川市	環境基準点				1					1									
	準基準点				2					2									
東大阪市	環境基準点				1					1									
	準基準点				4					3	4								
合計	環境基準点	15	20	20	9	12	12	14	24	94	15	48	12						
	準基準点	5	9	29	21	12	5	19	43	50	22	49	3	15					

目	特殊項目																					要監視項目															底質			測定地点	地図中番号																																																																																																						
	フエノール類											その他										P	C	B																																																																																																																							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21				22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36			37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138
古川橋	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144																																																																																																				

別表1-2(4) 測定地点、測定回数一覧表(海域)

水域名	環境基準	(全水素・域全りん)	(全環素・全基りん)	測定地点	環境基準点番号	府独自番号	地点統一番号	N・P等水域コード	測定機関	水質測定(表層)	水質測定(底層)	底質測定	水質																					
													生活環境項目																					
													pH	DO	COD(酸性法)	COD(アルカリ性法)	COD(ろ過酸性法)	大腸菌群数	ノルマルヘキサン抽出物質	全窒素	全りん	全亜鉛	カドミウム	全シアン	六価クロム	砒素	総水銀	アルキル水銀						
大阪湾(1)	海域Cイ	大阪湾(イ)	海域IVイ	C-3(南港西)	◎0001	60101	401	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	-	2	12	12	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1			
				C-4(堺泉北港西)	◎0002	60102	401	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	-	2	12	12	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1
				C-5(阪南港西)	◎0003	60103	401	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	-	2	12	12	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※
大阪湾(2)	海域Bロ	大阪湾(ロ)	海域IIIイ	B-3(築港沖)	◎0004	60201	402	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	-	12	12	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1		
				B-4(泉大津沖)	◎0005	60202	402	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	-	12	12	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1
				B-5(二色沖)	◎0006	60203	402	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	-	12	12	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1
大阪湾(3)	海域Aハ	大阪湾(ハ)	海域IIニ	A-2(忠岡港沖)	◎0007	60301	402	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	12	12	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1		
				A-3(りんくう沖)	◎0008	60302	403	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	12	12	12	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1	
大阪湾(4)	海域Aロ	大阪湾(ハ)	海域IIニ	A-6(関空北)	◎0009	60401	403	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	12	12	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1		
				A-7(尾崎沖)	◎0010	60402	403	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	12	12	12	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1	
大阪湾(5)	海域Aイ	大阪湾(ハ)	海域IIニ	A-10(関空西)	◎0011	60501	403	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	12	12	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1		
				A-11(観音崎沖)	◎0012	60502	403	大阪府	○	○		12	12	12	12	12	12	12	12	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1	
尾崎港	海域Cイ	大阪湾(イ)	-	C-7(尾崎港内)	○0013	60601	503	大阪府	○	○		12	12	12	12	6	-	2	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1			
淡輪港	海域Cイ			C-8(淡輪港内)	○0014	60701	503	大阪府	○	○		12	12	12	12	6	-	2	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1			
深日港	海域Cイ			C-9(深日港内)	○0015	60801	503	大阪府	○	○		12	12	12	12	6	-	2	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1		
大阪湾(1)	-	大阪湾(イ)	-	O-1(No.5ブイ跡)	●0016	60151	501	大阪市	○	○		12	12	12	-	-	-	-	4	4	1	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1			
				O-2(南港)	●0017	60152	501	大阪市	○	○		12	12	12	-	-	-	-	4	4	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1		
				O-3(大阪港関門外)	●0018	60153	501	大阪市	○	○		12	12	12	-	-	-	-	4	4	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1		
				O-4(神崎川河口中央)	●0019	60154	501	大阪市	○	○		12	12	12	-	-	-	-	4	4	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1	
				O-5(淀川河口中央)	●0020	60155	501	大阪市	○	○		12	12	12	-	-	-	-	4	4	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1	
				O-6(木津川河口中央)	●0021	60156	501	大阪市	○	○		12	12	12	-	-	-	-	4	4	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	1	
				S-1(堺7-3区沖)	●0022	60171	501	堺市	○	○		4	4	4	-	-	-	-	4	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	※	①	
O-7(大和川河口中央)	▲			大阪府	○	○		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				

注1 「環境基準」の内、「イ」は直ちに達成、「ロ」は5年以内で可及的速やかに達成、「ハ」は5年を超える期間で可及的速やかに達成を示す。
 注2 「環境基準」の内、◎印は環境基準点を、○印は環境基準点(全窒素及び全りんを除く)を、●印は準基準点を、▲印は底質測定のみを行う準基準点を
 注3 ※印は総水銀が検出された場合、当該検体のみ分析を実施する。
 注4 丸囲み数字(① ◎)は数年に一度調査を実施するローリング調査導入地点を示す、22円内の数字は測定回数を示し、-は測定を実施しないことを示す。

別表 1 - 3

測定方法、環境基準値等一覧表

区分	測定項目	測定方法	環境基準値 (mg/L)	報告下限値 (mg/L)
健康項目	カドミウム	昭和46年12月28日付け環境庁告示第59号 (以下「環境庁告示」)別表1 JIS K 0102 55.2 JIS K 0102 55.3 JIS K 0102 55.4	キレート樹脂イオン交換(環境庁告示付表(以下「付表」)) 8. 必要に応じて実施) 電気加熱原子吸光法 ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.003 以下 0.0003
	全シアン	JIS K 0102 38.1.2及び38.2 JIS K 0102 38.1.2及び38.3	ピリジン-ピラゾール吸光度法 4-ピリジンカルボン酸-ピラゾール吸光度法	検出されないこと 0.1
	鉛	JIS K 0102 54.1 備考1 JIS K 0102 54.2 JIS K 0102 54.3 JIS K 0102 54.4	溶媒抽出ル-ム原子吸光法 電気加熱原子吸光法 ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.01 以下 0.005
	六価クロム	JIS K 0102 65.2.1 JIS K 0102 65.2.3 JIS K 0102 65.2.4 JIS K 0102 65.2.5	ジフェニルカルバジド吸光度法 電気加熱原子吸光法 ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.05 以下 0.02
	砒素	JIS K 0102 61.2 JIS K 0102 61.3 JIS K 0102 61.4	水素化物発生原子吸光法 水素化物発生ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.01 以下 0.005
	総水銀	付表1	還元気化原子吸光法	0.0005 以下 0.0005
	アルキル水銀	付表2	溶媒抽出ガスクロマトグラフ法	検出されないこと 0.0005
	P C B	付表3	溶媒抽出ガスクロマトグラフ法	検出されないこと 0.0005
	ジクロロメタン	JIS K 0125 5.1 JIS K 0125 5.2 JIS K 0125 5.3.2	バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法 バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ法(FID)	0.02 以下 0.002
	四塩化炭素	JIS K 0125 5.1 JIS K 0125 5.2 JIS K 0125 5.3.1 JIS K 0125 5.4.1 JIS K 0125 5.5	バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法 バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ法(ECD) ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ法(ECD) 溶媒抽出ガスクロマトグラフ法(ECD)	0.002 以下 0.0002
	1,2-ジクロロエタン	JIS K 0125 5.1 JIS K 0125 5.2 JIS K 0125 5.3.1 JIS K 0125 5.3.2	バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法 バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ法(ECD) バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ法(FID)	0.004 以下 0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	JIS K 0125 5.1 JIS K 0125 5.2 JIS K 0125 5.3.2	バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法 バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ法(FID)	0.1 以下 0.002
	シス-1,2-ジクロロエチレン	同 上	同 上	0.04 以下 0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	JIS K 0125 5.1 JIS K 0125 5.2 JIS K 0125 5.3.1 JIS K 0125 5.4.1 JIS K 0125 5.5	バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法 バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ法(ECD) ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ法(ECD) 溶媒抽出ガスクロマトグラフ法(ECD)	1 以下 0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	同 上	同 上	0.006 以下 0.0006
	トリクロロエチレン	同 上	同 上	0.03 以下 0.002
	テトラクロロエチレン	同 上	同 上	0.01 以下 0.0005
	1,3-ジクロロプロペン	JIS K 0125 5.1 JIS K 0125 5.2 " 5.3.1	バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法 バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ法(ECD)	0.002 以下 0.0002
	チウラム	付表4	高速液体クロマトグラフ法	0.006 以下 0.0006
	シマジン	付表5の第1 付表5の第2	溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ質量分析法 溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ法(FID)(ECD)	0.003 以下 0.0003
	チオベンカルブ	同 上	同 上	0.02 以下 0.002
	ベンゼン	JIS K 0125 5.1 JIS K 0125 5.2 JIS K 0125 5.3.2	バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法 バージ・トラップ-ガスクロマトグラフ法(FID)	0.01 以下 0.001
	セレン	JIS K 0102 67.2 JIS K 0102 67.3 JIS K 0102 67.4	水素化合物発生原子吸光法 水素化合物発生ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.01 以下 0.002
	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	特殊項目欄 参照	特殊項目欄 参照	10 以下 0.08
	ふっ素	JIS K 0102 34.1 JIS K 0102 34.1c) (注 ⁶⁾ 第三文を除く。)及び付表6	ランタン-トリチウムリンコンプレキソン吸光度法 イオンクロマトグラフ法	0.8 以下 0.08
	ほう素	JIS K 0102 47.1 JIS K 0102 47.3 JIS K 0102 47.4	メレンブール吸光度法 ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	1 以下 0.02
	1,4-ジオキサン	付表7	活性炭抽出-ガスクロマトグラフ質量分析法	0.05 以下 0.005

区分	測定項目	測定方法	環境基準値 (mg/L)	報告下限値 (mg/L)	
生活環境項目	水素イオン濃度	JIS K 0102 12.1	ガラス電極法	別表1-4参照	
	溶存酸素量	JIS K 0102 32.1	よう素滴定法	別表1-4参照	0.5
		JIS K 0102 32.2	ミラー変法		
		JIS K 0102 32.3	隔膜電極法		
	生物化学的酸素要求量	JIS K 0102 21		別表1-4参照	0.5
	化学的酸素要求量	(河川) JIS K 0102 17	100℃における過マンガン酸カリウムによる酸素消費量	別表1-4参照	0.5
		(海域) JIS K 0102 17	100℃における過マンガン酸カリウムによる酸素消費量		
	化学的酸素要求量 (アルカリ性法)	(海域) 環境庁告示 別表2の2ア 備考2			
	浮遊物質量	付表9		別表1-4参照	1
	大腸菌群数	環境庁告示 別表2の1(1)ア 備考4	最確数法	別表1-4参照	1.8×10 ⁰ MPN
ノルマルヘキサン抽出物質	付表11		別表1-4参照	0.5	
全窒素	(河川) JIS K 0102 45.2	ペルオキシ二硫酸カリウム分解(アルカリ性)-紫外吸光度法	別表1-4参照	0.05	
	(河川) JIS K 0102 45.3	硫酸ヒドログenic還元-ナフチルエチレンジアミン吸光度法			
全りん	(河川) JIS K 0102 45.4	銅・カドミウム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光度法	別表1-4参照	0.003	
	(海域) JIS K 0102 45.4	銅・カドミウム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光度法			
全亜鉛	JIS K 0102 46.3	ペルオキシ二硫酸カリウム分解-モリブデン青吸光度法	別表1-4参照	0.001	
	環境庁告示 別表2の1(1)のイ及び2のウ	セロト樹脂イオン交換(付表10.必要に応じて実施)			
	JIS K 0102 53.1	溶媒抽出フリューム原子吸光法			
	JIS K 0102 53.2	電気加熱原子吸光法			
	JIS K 0102 53.3	ICP発光分光分析法			
JIS K 0102 53.4	ICP質量分析法				
特殊項目	フェノール類	JIS K 0102 28.1	4-アミノピリジン吸光度法	0.005	
	銅	JIS K 0102 52.2	溶媒抽出フリューム原子吸光法	0.005	
		JIS K 0102 52.3	電気加熱原子吸光法		
		JIS K 0102 52.4	ICP発光分光分析法		
		JIS K 0102 52.5	ICP質量分析法		
	溶解性鉄	JIS K 0102 57.2	フリューム原子吸光法	0.08	
		JIS K 0102 57.3	電気加熱原子吸光法		
		JIS K 0102 57.4	ICP発光分光分析法		
	溶解性マンガン	JIS K 0102 56.2	フリューム原子吸光法	0.01	
		JIS K 0102 56.3	電気加熱原子吸光法		
		JIS K 0102 56.4	ICP発光分光分析法		
		JIS K 0102 56.5	ICP質量分析法		
	全クロム	JIS K 0102 65.1.1	ジフェニルピリジン吸光度法	0.03	
		JIS K 0102 65.1.3	電気加熱原子吸光法		
		JIS K 0102 65.1.4	ICP発光分光分析法		
		JIS K 0102 65.1.5	ICP質量分析法		
	陰イオン界面活性剤	JIS K 0102 30.1.1	メチレンブルー吸光度法	0.01	
硝酸性窒素	JIS K 0102 43.2.1	還元蒸留-インドフェノール青吸光度法	0.04		
	JIS K 0102 43.2.3	銅・カドミウム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光度法			
	JIS K 0102 43.2.5	イオンクロマトグラフ法			
亜硝酸性窒素	JIS K 0102 43.1.1	ナフチルエチレンジアミン吸光度法	0.04		
	JIS K 0102 43.1.2	イオンクロマトグラフ法			
アンモニア性窒素	JIS K 0102 42.1 42.2	蒸留-インドフェノール青吸光度法	0.04		
	JIS K 0102 42.5	イオンクロマトグラフ法			
りん酸性りん	(河川) JIS K 0102 46.1.1	モリブデン青(アスコルビン酸還元)吸光度法	0.003		
	(河川) JIS K 0102 46.1.2	モリブデン青(塩化すず(II)還元)吸光度法			
	(海域) JIS K 0102 46.1.1	モリブデン青(アスコルビン酸還元)吸光度法			
プランクトン数	気象庁刊 海洋観測指針6.2			-	
クロロフィルa	海洋観測指針6.3			0.1 μg/L	
懸濁物質の強熱減量	JIS K 0102 14			-	
濁度	JIS K 0101 9.4	積分球濁度		0.2 度	
特定項目	トリホモタン生成能 (クロロホルム生成能)	平成7年6月16日環境庁告示第30号別表		0.0004	
	(ジクロロアノモホルム生成能)		0.0001		
	(クロロジプロモホルム生成能)		0.0001		
	(アノモホルム生成能)		0.0001		
			0.0001		

区分	測定項目	測定方法	指針値 (mg/L)	報告下限値 (mg/L)	
要監視項目	クロロホルム	JIS K 0125 5.1	パージ・トラップ-ガススクロマトグラフ質量分析法	0.06	
		JIS K 0125 5.2	ヘッドスペース-ガススクロマトグラフ質量分析法		
		JIS K 0125 5.3.1	パージ・トラップ-ガススクロマトグラフ法(ECD)		
	トランス-1,2-ジクロロエチレン	同 上	同 上	0.04	0.004
	1,2-ジクロロプロパン	同 上	同 上	0.06	0.006
	p-ジクロロベンゼン	同 上	同 上	0.2	0.03
	イソキサチオン	平成5年4月28日付け環境庁通知第121号付表(以下「通知付表」)2の第1 通知付表2の第2	溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ質量分析法 溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ法	0.008	0.0008
	ダイアジノン	同 上	同 上	0.005	0.0005
	フェニトロチオン	同 上	同 上	0.003	0.0003
	イソプロチオラン	同 上	同 上	0.04	0.004
オキシ銅	通知付表3	高速液体クロマトグラフ法	0.04	0.004	
クロロタロニル	通知付表2の第1	溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ質量分析法	0.05	0.004	
	通知付表2の第2	溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ法			

区分	測定項目	測定方法	指針値 (mg/L)	報告下限値 (mg/L)
要 監 視 項 目	プロピザミド	通知付表2の第1 通知付表2の第2	溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ質量分析法 溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ法	0.008 0.0008
	E P N	同 上	同 上	0.006 0.0006
	ジクロロボス	同 上	同 上	0.008 0.0008
	フェノプカルブ	同 上	同 上	0.03 0.002
	イプロベンホス	同 上	同 上	0.008 0.0008
	クロロニトロフェン	同 上	同 上	— 0.0001
	トルエン	JIS K 0125 5.1 JIS K 0125 5.2 JIS K 0125 5.3.2	バージ・トラップ・ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペース・ガスクロマトグラフ質量分析法 バージ・トラップ・ガスクロマトグラフ法(FID)	0.6 0.06
	キシレン	同 上	同 上	0.4 0.04
	フタル酸ジエチルヘキシル	通知付表4の第1 通知付表4の第2	ガスクロマトグラフ質量分析法 ガスクロマトグラフ法	0.06 0.006
	ニッケル	JIS K 0102 59.3 通知付表5 通知付表7	ICP発光分光分析法 ICP質量分析法 電気加熱原子吸光法	— 0.001
	モリブデン	JIS K 0102 68.2 通知付表5 通知付表7	ICP発光分光分析法 ICP質量分析法 電気加熱原子吸光法	0.07 0.007
	アンチモン	平成16年3月31日付け環境省通知付表 (以下「平成16年省通知付表」)5の第1 平成16年省通知付表5の第2 平成16年省通知付表5の第3	水素化物発生ICP発光分光分析法 水素化物発生原子吸光法 ICP質量分析法	0.02 0.0002
	塩化ビニルモノマー	平成16年省通知付表1	バージ・トラップ・ガスクロマトグラフ質量分析法	0.002 0.0002
	エピクロヒドリン	平成16年省通知付表2	バージ・トラップ・ガスクロマトグラフ質量分析法	0.0004 0.00003
	全マンガン	JIS K 0102 56.2 JIS K 0102 56.3 JIS K 0102 56.4 JIS K 0102 56.5	フラム原子吸光法 電気加熱原子吸光法 ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.2 0.02
	ウラン	平成16年省通知付表4の第1 平成16年省通知付表4の第2	キレート樹脂イオン交換-ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.002 0.0002
	フェノール	平成15年11月5日付け環境省通知付表	溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ質量分析法	別表1-4参照 0.001
ホルムアルデヒド	平成15年11月5日付け環境省通知付表	誘導体化・ガスクロマトグラフ質量分析法	別表1-4参照 0.003	
そ の 他	気温	JIS K 0102 7.1	—	—
	水温	JIS K 0102 7.2	—	—
	色相	JIS K 0102 8	—	—
	臭気	JIS K 0102 10.1	—	—
	透視度	JIS K 0102 9	—	—
	塩素イオン	JIS K 0102 35.1 JIS K 0102 35.3	硝酸銀滴定法 イオンクロマトグラフ法	— 10
	塩分	海洋観測指針5.3	サリノメータを用いた測定	—
	電気伝導率	JIS K 0102 13	—	1nS/m

(底質)

区分	測定項目	測定方法	報告下限値 (mg/kg)	
健 康 項 目	カドミウム	昭和63年環水管第127号 底質調査方法 (以下「底質調査方法」)	フラム原子吸光法または溶媒抽出フラム原子吸光法	0.01
	全シアン	底質調査方法	4-ピリジンカルボン酸-ピラゾロンまたはピリジン-ピラゾロン吸 光光度法	0.1
	鉛	底質調査方法	フラム原子吸光法または溶媒抽出フラム原子吸光法	0.1
	砒素	底質調査方法	ジエチルチオカルバミン酸銀吸光光度法または水素化物発生 原子吸光法	0.1
	総水銀	底質調査方法	還元気化原子吸光法	0.01
	アルキル水銀	底質調査方法	溶媒抽出ガスクロマトグラフ法(ECD)	0.01
	P C B	底質調査方法	溶媒抽出ガスクロマトグラフ法(ECD)	0.01
	一 般 項 目	水素イオン濃度	底質調査方法	—
化学的酸素要求量		底質調査方法	0.5 mg/g	
硫化物		底質調査方法	—	
強熱減量		底質調査方法	—	
酸化還元電位		底質調査方法	酸化還元電位計を用いた測定	—
全クロム		底質調査方法	ジフェニルピリジン吸光光度法または溶媒抽出フラム原 子吸光法	0.1
ノルマルヘキサン抽出物質	B法：「新編水質汚濁調査指針」5.13	—	0.5 mg/g	
含水率	底質調査方法	—	—	

備 考

- 有効数字を2桁とし、3桁目以下を切り捨てる。pHについては、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下1位までとする。
- 報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。
- 硝酸性窒素と亜硝酸性窒素の濃度は、規格43.2.1、43.2.3又は43.2.5により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと規格43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和を求めた後に、上記の1及び2の桁数処理を行う。
ただし、硝酸性窒素と亜硝酸性窒素の測定値の何れか一方が報告下限値未満の場合は、その報告下限値未満に代えて報告下限値の数値を測定値として扱う。
- 平均値の計算に当たっては、有効数字を2桁までとし、その下の桁を四捨五入する。その場合、報告下限値の桁を下回る桁が残る場合は四捨五入して報告下限値の桁までとする。
- 報告下限値未満の数値については、報告下限値の数値として取扱い、平均値を計算する。

環境基準値及び評価方法

〔 昭和 46 年 12 月 28 日環告第 59 号
平成 13 年 5 月 31 日環水企第 92 号 〕

(1) 人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

項目	基準値	対象水域
カドミウム	0.003mg/L 以下	全 公 共 用 水 域
全シアン	検出されないこと	
鉛	0.01mg/L 以下	
六価クロム	0.05mg/L 以下	
砒素	0.01mg/L 以下	
総水銀	0.0005mg/L 以下	
アルキル水銀	検出されないこと	
PCB	検出されないこと	
ジクロロメタン	0.02mg/L 以下	
四塩化炭素	0.002mg/L 以下	
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L 以下	
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L 以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L 以下	

項目	基準値	対象水域
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L 以下	全 公 共 用 水 域
トリクロロエチレン	0.03mg/L 以下	
テトラクロロエチレン	0.01mg/L 以下	
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L 以下	
チウラム	0.006mg/L 以下	
シマジン	0.003mg/L 以下	
チオベンカルブ	0.02mg/L 以下	
ベンゼン	0.01mg/L 以下	
セレン	0.01mg/L 以下	
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10mg/L 以下	
ふっ素	0.8mg/L 以下	
ほう素	1mg/L 以下	
1,4-ジオキサン	0.05mg/L 以下	

評価方法 1 基準値は、年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。また、アルキル水銀及び PCB については「検出されないこと」をもって基準値とされているので、同一測定地点における年間の全ての検体の測定値が不検出であることをもって基準達成と判断する。さらに、総水銀に係る評価方法は評価方法2のとおり。
 2 総水銀に係る基準値について年間平均値として達成、維持することは、同一測定点における年間の総検体の測定値の中に「定量限界値未満(以下「ND」という。)」が含まれていない場合には、総検体の測定値が全て 0.0005mg/L であることをいい、ND が含まれている場合には、測定値が 0.0005mg/L を超える検体数が総検体数の 37 % 未満であることをいうものとする。
 3 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。

(注) 1 「検出されないこと」とは、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

(2) 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）

ア 河川(湖沼を除く)

①

類型	利用目的の 適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存 酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道1級、自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	1mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	50MPN/100mL 以下
A	水道2級、水産1級、水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1,000MPN/100mL 以下
B	水道3級、水産2級及びC以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5mg/L 以上	5,000MPN/100mL 以下
C	水産3級、工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L 以下	5mg/L 以上	—
D	工業用水2級、農業用水及びEの欄に掲げるもの	6.0 以上 8.5 以下	8mg/L 以下	100mg/L 以下	2mg/L 以上	—
E	工業用水3級、環境保全	6.0 以上 8.5 以下	10mg/L 以下	ごみ等の浮遊が認め られないこと	2mg/L 以上	—

評価方法 1 基準値は、日間平均値とする。
 2 農業利用水点については、水素イオン濃度 6.0 以上 7.5 以下、溶存酸素量 5mg/L 以上とする。
 3 類型指定された水域における BOD の環境基準達成状況の年間評価については、当該水域の環境基準点において、日間平均値の 75% 値が当該水域があてはめられた類型の環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。複数の環境基準点をもつ水域においては、当該水域内のすべての環境基準点において、環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。

(注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 〃 2級：沈澱ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 〃 3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 〃 2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
 〃 3級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
 4 工業用水1級：沈澱等による通常の浄水操作を行うもの
 〃 2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
 〃 3級：特殊の浄水操作を行うもの
 5 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

②

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値	
		全亜鉛	
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	
生物特B	生物 A、又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	

評価方法 1 基準値は、年間平均値とする。

イ 海域

①

類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン濃度(pH)	化学的酸素要求量(COD)	溶存酸素量(DO)	大腸菌群数	n-ヘキサン抽出物質(油分)
A	水産1級、水浴、自然環境保全及びB以下の欄に掲げるもの	7.8 以上 8.3 以下	2mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1,000MPN/100mL 以下	検出されないこと
B	水産2級、工業用水及びCの欄に掲げるもの	7.8 以上 8.3 以下	3mg/L 以下	5mg/L 以上	—	検出されないこと
C	環境保全	7.0 以上 8.3 以下	8mg/L 以下	2mg/L 以上	—	—

評価方法 1 基準値は、日間平均値とする。

- 水産1級のうち、生食用原料カキの養殖の利水点については、大腸菌群数 70MPN/100mL 以下とする。
- 類型指定された水域における COD の環境基準達成状況の年間評価については、当該水域の環境基準点において、日間平均値の 75% 値が当該水域があてはめられた類型の環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。複数の環境基準点をもつ水域においては、当該水域内のすべての環境基準点において、環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。また、この場合の日間平均値については、2 層以上で採取する場合は、各層の値を平均した全層の値を採用する。

(注)

- 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 水産1級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用
 - 2級：ボラ、ノリ等の水産生物用
- 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

②

類型	利用目的の適応性	基準値	
		全窒素	全りん
I	自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの(水産2種及び3種を除く。)	0.2mg/L 以下	0.02mg/L 以下
II	水産1種 水浴及びIII以下の欄に掲げるもの(水産2種及び3種を除く。)	0.3mg/L 以下	0.03mg/L 以下
III	水産2種及びIVの欄に掲げるもの(水産3種を除く。)	0.6mg/L 以下	0.05mg/L 以下
IV	水産3種、工業用水、生物生息環境保全	1 mg/L 以下	0.09mg/L 以下

評価方法 1 基準値は、年間平均値とする。

- 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。
- 類型指定された水域における全窒素及び全リンの環境基準達成状況の年間評価は、当該水域の環境基準点において、表層の年間平均値が当該水域があてはめられた類型の環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。複数の環境基準点をもつ水域については、当該水域内の各環境基準点における表層の年間平均値を、当該水域内のすべての基準点について平均した値が環境基準に適合している場合に当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。

(注)

- 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 水産1種：底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される
 - 2種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される
 - 3種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される
- 生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度

③

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		全亜鉛
生物A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L 以下
生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/L 以下

評価方法 1 基準値は、年間平均値とする。

(3) 要監視項目及び指針値

①

項目	指針値
クロロホルム	0.06mg/L 以下
トランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/L 以下
1,2-ジクロロプロパン	0.06mg/L 以下
p-ジクロロベンゼン	0.2mg/L 以下
イソキサチオン	0.008mg/L 以下
ダイアジノン	0.005mg/L 以下
フェントロチオン	0.003mg/L 以下
イソプロチオラン	0.04mg/L 以下
オキシ銅	0.04mg/L 以下
クロロタロニル	0.05mg/L 以下
プロピザミド	0.008mg/L 以下
EPN	0.006mg/L 以下
ジクロロボス	0.008mg/L 以下

項目	指針値
フェノブカルブ	0.03mg/L 以下
イプロベンホス	0.008mg/L 以下
クロルニトロフェン	—
トルエン	0.6mg/L 以下
キシレン	0.4mg/L 以下
フタル酸ジエチルヘキシル	0.06mg/L 以下
ニッケル	—
モリブデン	0.07mg/L 以下
アンチモン	0.02mg/L 以下
塩化ビニルモノマー	0.002mg/L 以下
エピクロロヒドリン	0.0004mg/L 以下
全マンガン	0.2mg/L 以下
ウラン	0.002mg/L 以下

②

項目	水域	類型	指針値
クロロホルム	河川及び湖沼	生物 A	0.7mg/L 以下
		生物特 A	0.006mg/L 以下
		生物 B	3mg/L 以下
		生物特 B	3mg/L 以下
	海域	生物 A	0.8mg/L 以下
		生物特 A	0.8mg/L 以下
フェノール	河川及び湖沼	生物 A	0.05mg/L 以下
		生物特 A	0.01mg/L 以下
		生物 B	0.08mg/L 以下
		生物特 B	0.01mg/L 以下
	海域	生物 A	2mg/L 以下
		生物特 A	0.2mg/L 以下
ホルムアルデヒド	河川及び湖沼	生物 A	1mg/L 以下
		生物特 A	1mg/L 以下
		生物 B	1mg/L 以下
		生物特 B	1mg/L 以下
	海域	生物 A	0.3mg/L 以下
		生物特 A	0.03mg/L 以下

別表 1 - 5 環境基準の水域類型指定一覧表

(平成24年1月31日現在)

(1) 河川

① BOD等に係る類型

区分	河川水域名	範囲	類型及び達成期間	指定年月日(最終改定年月日)
淀川水域	淀川下流(1)	宇治川合流点から長柄堰まで	Bハ	昭和45年9月1日
	淀川下流(2)	長柄堰より下流	Cイ	昭和45年9月1日(平成15年3月27日)
	船橋川	全域	Bハ	昭和50年10月8日
	穂谷川	全域	Bハ	
	檜尾川	全域	Bイ	昭和50年10月8日(平成21年6月30日)
	天野川	奈良県界より下流	Bハ	昭和50年10月8日
	芥川(1)	京都府界から塚脇橋まで	Aイ	
	芥川(2)	塚脇橋より下流	Aイ	昭和50年10月8日(平成15年5月16日)
	水無瀬川	全域	Aイ	平成4年2月26日
	神崎川水域	神崎川	安威川、猪名川を除く神崎川	Bロ
安威川上流		茨木市取水口より上流	Aイ	昭和45年9月1日(平成21年6月30日)
安威川下流(1)		茨木市取水口から戸伏まで	Aイ	
安威川下流(2)		戸伏から大正川合流点まで	Aイ	昭和45年9月1日(平成21年6月30日)
安威川下流(3)		大正川合流点より下流	Bロ	
佐保川及び茨木川		全域	Aイ	平成4年2月26日(平成21年6月30日)
大正川		全域	Aイ	
勝尾寺川		全域	Aロ	昭和45年9月1日(平成21年3月31日)
猪名川上流		箕面川合流点より上流	Aイ	
猪名川下流(2)		蕨川分岐点から蕨川合流点まで	Dイ	昭和45年9月1日(平成13年3月30日)
箕面川(1)		箕面市取水口より上流	Aイ	昭和50年10月8日
箕面川(2)		箕面市取水口から兵庫県界まで	Aイ	
余野川		全域	Aイ	昭和50年10月8日(平成14年6月18日)
千里川		全域	Aイ	
田尻川		兵庫県界より上流	Aイ	平成15年5月16日
一庫・大路次川		京都府界から兵庫県界まで	Aイ	
山辺川	全域	Aイ	昭和45年9月1日(平成21年6月30日)	
寝屋川(1)	住道大橋より上流	Cイ		
寝屋川(2)	住道大橋より下流	Dロ		
恩智川	全域	Dイ		
古川	全域	Dロ		
第二寝屋川	全域	Dイ		
寝屋川水域	平野川分水路	全域	Dイ	平成4年2月26日(平成15年5月16日)
	平野川	全域	Dイ	昭和50年10月8日(平成21年6月30日)
	大阪市内河川水域	大川	大川全域及び城北川全域	Bイ
堂島川		全域	Bイ	
土佐堀川		全域	Cイ	昭和45年9月1日(平成21年6月30日)
道頓堀川		全域	Bイ	
正蓮寺川		全域	Bイ	昭和45年9月1日(平成15年5月16日)
六軒家川		全域	Bイ	
安治川		全域	Bイ	昭和45年9月1日(平成21年6月30日)
尻無川		全域	Bイ	
木津川		全域	Bイ	昭和45年9月1日(平成21年6月30日)
木津川運河		全域	Bイ	
住吉川	全域	Bロ	平成15年5月16日(平成21年6月30日)	
東横堀川	全域	Bイ		

区分	河川水域名	範囲	類型及び達成期間	指定年月日(最終改定年月日)	
大和川水域	石川	全域	Bイ	昭和45年9月1日(平成21年6月30日)	
	千早川	全域	Aイ	昭和50年10月8日(平成15年5月16日)	
	天見川	全域	Bイ	平成4年2月26日	
	石見川	全域	Aイ		
	飛鳥川	全域	Cロ	平成15年5月16日	
	梅川	全域	Aイ	平成15年5月16日(平成21年6月30日)	
	佐備川	全域	Cイ		
	大和中流	桜井市初瀬取水口から浅香山まで	Cハ	昭和45年9月1日	
	大和川下流	浅香山から下流	Dハ		
	東除川	全域	Cロ	昭和50年10月8日(平成21年6月30日)	
	西除川(1)	狭山池流出端より上流	Bロ		
	西除川(2)	狭山池流出端より下流	Dロ		
	泉州諸河川水域	石津川	全域	Dイ	昭和48年3月16日(平成21年6月30日)
		和田川	全域	Cロ	平成4年2月26日(平成21年6月30日)
大津川上流		泉大津市高津取水口より上流	Bロ	昭和48年3月16日	
大津川下流		泉大津市高津取水口より下流	Dイ	昭和48年3月16日(平成21年6月30日)	
牛滝川		全域	Bロ		
松尾川		全域	Bハ	昭和48年3月16日	
横尾川		全域	Bイ		
父鬼川		全域	Aイ	昭和48年3月16日	
春木川		全域	Dイ		
津田川		全域	Eイ	昭和48年3月16日(平成21年6月30日)	
近木川上流		稲谷川合流点より上流	Bイ		
近木川下流		稲谷川合流点より下流	Dイ	昭和48年3月16日(平成21年6月30日)	
見出川		全域	Eイ		
佐野川		全域	Eイ	昭和48年3月16日	
樫井川上流		兎田橋より上流	Bイ		
樫井川下流		兎田橋より下流	Eイ	昭和48年3月16日(平成21年6月30日)	
男里川		全域	Aイ	昭和48年3月16日	
金熊寺川		全域	Aイ		
菟砥川	全域	Aイ			
山中川	全域	Aイ			
番川	全域	Aイ			
大川	全域	Aイ			
東川	全域	Aイ			
西川	全域	Aイ			

(注) 達成期間の分類は次のとおりとする。
 1 「イ」は直ちに達成
 2 「ロ」は5年以内に可及的速やかに達成
 3 「ハ」は5年を超える期間で可及的速やかに達成

② 水生生物類型

区分	河川水域名	範囲	類型及び達成期間	指定年月日 (最終改定年月日)
淀川水域	淀川	全域	生物Bイ	平成21年11月30日
	船橋川	全域	生物Bイ	
	穂谷川	全域	生物Bイ	平成21年6月30日
	檜尾川	全域	生物Bイ	
	天野川	奈良県界より下流	生物Bイ	
	芥川(1)	京都府界から塚脇橋まで	生物Aイ	
	芥川(2)	塚脇橋より下流	生物Bイ	
	水無瀬川	全域	生物Aイ	
神崎川水域	神崎川	安威川、猪名川を除く神崎川	生物Bイ	平成21年11月30日
	安威川上流	茨木市取水口より上流	生物Aイ	平成21年6月30日
	安威川下流(1)	茨木市取水口から戸伏まで	生物Bイ	
	安威川下流(2)	戸伏から大正川合流点まで	生物Bイ	
	安威川下流(3)	大正川合流点より下流	生物Bイ	
	佐保川及び茨木川	全域	生物Bイ	
	大正川	全域	生物Bイ	
	勝尾寺川	全域	生物Bイ	平成21年11月30日
	猪名川(2)	ゴルフ橋より下流	生物Bイ	
	箕面川(1)	箕面市取水口より上流	生物Aイ	平成21年6月30日
	箕面川(2)	箕面市取水口から兵庫県界まで	生物Bイ	
	余野川	全域	生物Aイ	
	千里川	全域	生物Bイ	
	田尻川	兵庫県界より上流	生物Aイ	
	一庫・大路次川	京都府界から兵庫県界まで	生物Aイ	
山辺川	全域	生物Aイ		
寝屋川水域	寝屋川(1)	住道大橋より上流	生物Bロ	平成21年6月30日

区分	河川水域名	範囲	類型及び達成期間	指定年月日 (最終改定年月日)		
大阪市内河川水域	大川	大川全域及び城北川全域	生物Bイ	平成21年6月30日		
	堂島川	全域	生物Bイ			
	土佐堀川	全域	生物Bイ			
	道頓堀川	全域	生物Bイ			
	正蓮寺川	全域	生物Bイ			
	六軒家川	全域	生物Bイ			
	安治川	全域	生物Bイ			
	尻無川	全域	生物Bイ			
	木津川	全域	生物Bイ			
	木津川運河	全域	生物Bイ			
	住吉川	全域	生物Bイ			
	東横堀川	全域	生物Bイ			
	大和川水域	石川	全域		生物Bイ	平成21年6月30日
		千早川	全域		生物Bイ	
天見川		全域	生物Bイ			
石見川		全域	生物Aイ			
飛鳥川		全域	生物Bイ			
梅川		全域	生物Bイ			
佐備川		全域	生物Bイ			
大和川		全域	生物Bイ			
東除川		全域	生物Bロ			
西除川(1)		狭山池流出端より上流	生物Bイ			
泉州諸河川水域	和田川	全域	生物Bイ	平成21年6月30日		
	大津川上流	泉大津市高津取水口より上流	生物Bイ			
	牛滝川	全域	生物Bイ			
	松尾川	全域	生物Bイ			
	横尾川	全域	生物Bイ			
	父鬼川	全域	生物Bイ			
	近木川上流	稲谷川合流点より上流	生物Bイ			
	櫻井川上流	兎田橋より上流	生物Bイ			
	男里川	全域	生物Bロ			
	金熊寺川	全域	生物Bイ			
	菟砥川	全域	生物Bイ			
	山中川	全域	生物Bイ			
	番川	全域	生物Bイ			
	大川	全域	生物Bイ			
	東川	全域	生物Bイ			
	西川	全域	生物Bイ			

(注) 達成期間の分類は次のとおりとする。

- 「イ」は直ちに達成
- 「ロ」は5年以内に可及的速やかに達成
- 「ハ」は5年を超える期間で可及的速やかに達成

(2) 海域

水域名	範囲	類型及び達成期間	指定年月日 (最終改定年月日)
大阪湾(1)	図1-3参照	海域Cイ	昭和46年12月28日 (平成14年3月29日)
大阪湾(2)		海域Bロ	
大阪湾(3)		海域Aハ	
大阪湾(4)		海域Aロ	
大阪湾(5)		海域Aイ	
尾崎港		海域Cイ	昭和46年12月28日
淡輪港		海域Cイ	
深日港		海域Cイ	

(注) 達成期間の分類は次のとおりとする。

- 「イ」は直ちに達成
- 「ロ」は5年以内に可及的速やかに達成
- 「ハ」は5年を超える期間で可及的速やかに達成

水域名	範囲	類型及び達成期間	指定年月日 (最終改定年月日)
大阪湾(イ)	図1-3参照	海域IVイ	平成7年2月28日 (平成17年6月3日)
大阪湾(ロ)		海域IIIイ	
大阪湾(ハ)		海域IIイ	

2 地下水質測定計画

平成24年度地下水質測定計画

1 目的

この測定計画は、水質汚濁防止法第16条の規定により、大阪府域の地下水の水質の常時監視を行うために実施する水質等の測定について、測定する項目、測定の地点及び方法その他必要な事項を定めるものとする。

2 調査の区分

測定計画に基づく調査の区分は、次のとおりとする。

(1) 概況調査

府域の全体的な地下水の水質の状況を把握するために実施する地下水の水質調査とする。

利水的に重要な地域等において重点的に調査を行う定点方式と、地域をメッシュ等に分割し調査区域を選定して順次調査を行うローリング方式のいずれか又は両方の方式により調査する。

測定地点は、原則として利水状況、有害物質を使用している工場・事業場の立地の状況等を勘案し、設定することとする。

(2) 汚染井戸周辺地区調査

概況調査等により新たに発見された汚染について、その汚染範囲を確認するとともに汚染原因の究明に資するために実施する地下水の水質調査とする。

測定地点は、原則として発端井戸の上流側及び下流側の井戸の所在確認を最大限行い、その他利水状況、工場・事業場の立地状況等を勘案し、設定することとする。

概況調査等により新たに汚染が発見された場合、できるだけ速やかに当該調査を実施するものとする。

(3) 継続監視調査

汚染井戸周辺地区調査により確認された汚染地域について継続的に監視を行うために実施する地下水の水質調査とする。

測定地点は、原則として汚染井戸周辺地区調査で汚染が確認された調査井戸のうち、利水状況、工場・事業場の立地の状況等を勘案し、代表的な地点(複数地点又は最高濃度地点)を設定することとする。

3 測定地点及び測定機関

測定地点及び測定機関は、別表2-1、別表2-2、別表2-3及び別表2-4のとおりとする。

(1) 概況調査	81 地点
ア 定点方式	4 地点
イ ローリング方式	77 地点
(2) 継続監視調査	140 地点

4 測定期間

測定期間は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までとする。

5 測定項目

測定項目は、原則として次のとおりとする。

(1) 概況調査

ア 環境基準項目

カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、塩化ビニルモノマー、**1,2**-ジクロロエタン、**1,1**-ジクロロエチレン、**1,2**-ジクロロエチレン、**1,1,1**-トリクロロエタン、**1,1,2**-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、**1,3**-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン
(ただし、アルキル水銀については、総水銀が検出された場合に限る。)

イ 一般項目

気温、水温、外観、臭気、透視度、pH

(2) 汚染井戸周辺地区調査

環境基準項目のうち周辺で汚染が判明している項目、汚染の可能性の高い項目及びそれらの分解生成物並びに地下水の特性把握に必要な項目とする。

(3) 継続監視調査

一般項目及び測定地点ごとに別表2-4に掲げる項目とする。

6 測定回数

測定回数は、原則として次のとおりとし、過去の検出状況、利水状況及び発生源の有無等を考慮の上、設定するものとする。

(1) 概況調査 各測定地点において年1回以上

(2) 継続監視調査 各測定地点において年1回以上

なお、継続監視調査を終了する場合には、原則として測定地点で一定期間連続して環境基準を満たし、その上で、汚染範囲内で再度汚染井戸周辺地区調査を行い全ての地点が環境基準以下であることを確認した上で、汚染物質や地下水の用途等、各地域の実情を勘案し総合的に判断することとする。

7 測定方法

測定方法は、原則として別表2-5のとおりとする。

8 試料の採取等

(1) 試料の採取については、井戸の設置者に協力を求めるものとする。

(2) 井戸の諸元(深度、用途等)については、できる限り把握するものとする。

9 環境基準値及び評価方法

環境基準値及び評価方法は、別表2-5のとおりとする。

環境基準達成状況の評価は、調査の区分ごとに、検出の有無とともに、基準値の超過状況(基準値を超過した測定地点の割合または本数)で行う。また、必要に応じ、濃度の推移についても評価を行う。

10 測定結果の報告

測定結果は次のとおり大阪府へ報告するものとする。

- (1) 測定結果の報告は、別途指定の様式により行うものとする。
- (2) 環境基準項目の測定結果で環境基準値を超える値が検出された時は、直ちに報告するものとする。

11 その他

その他、本計画に定めのない事項については、測定機関と協議のうえ定める。



図 2 - 1 概況調査(定点方式)測定地区図
(平成 24 年度)

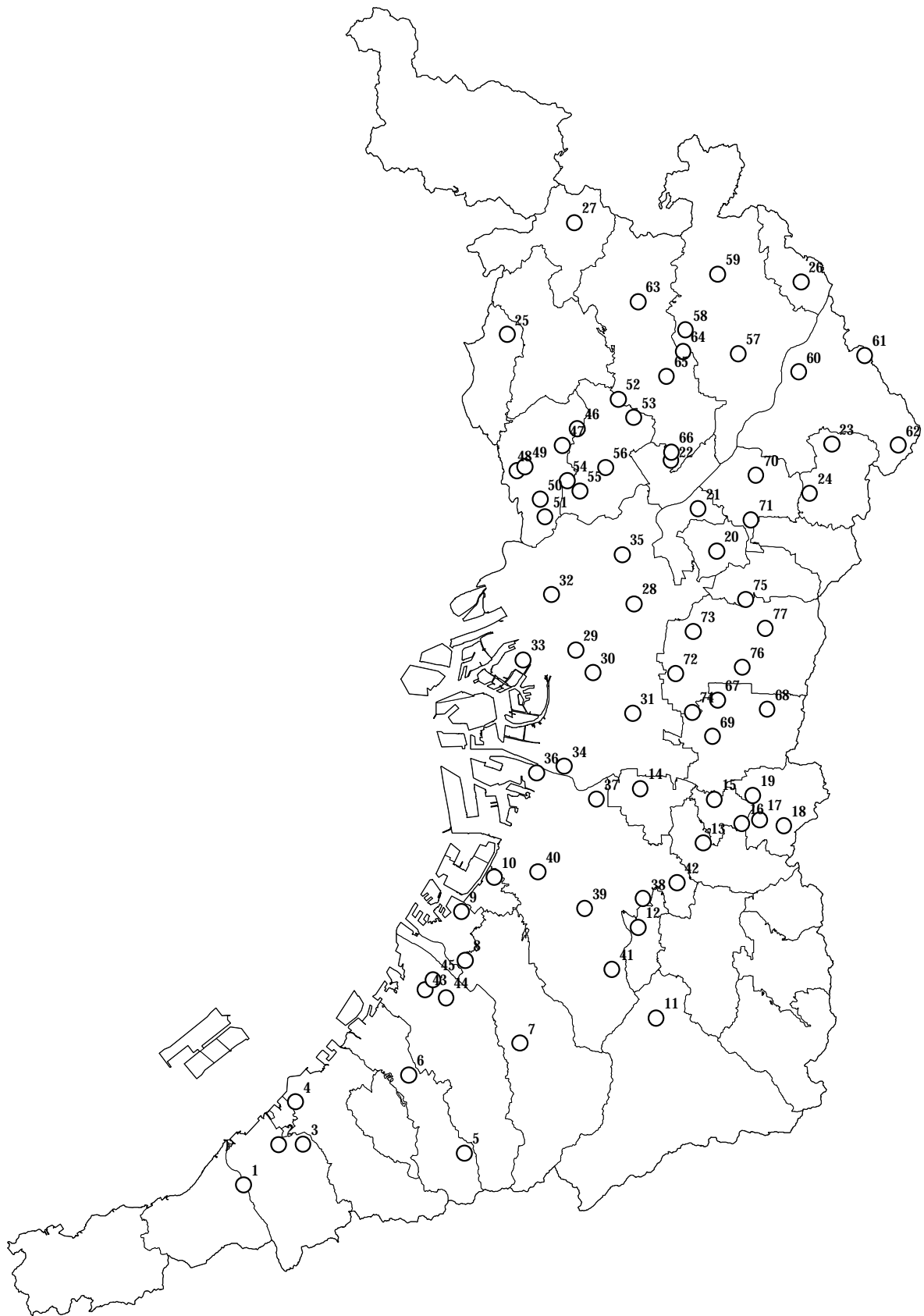


図 2 - 2 概況調査(ローリング方式)測定地点図
(平成 24 年度)

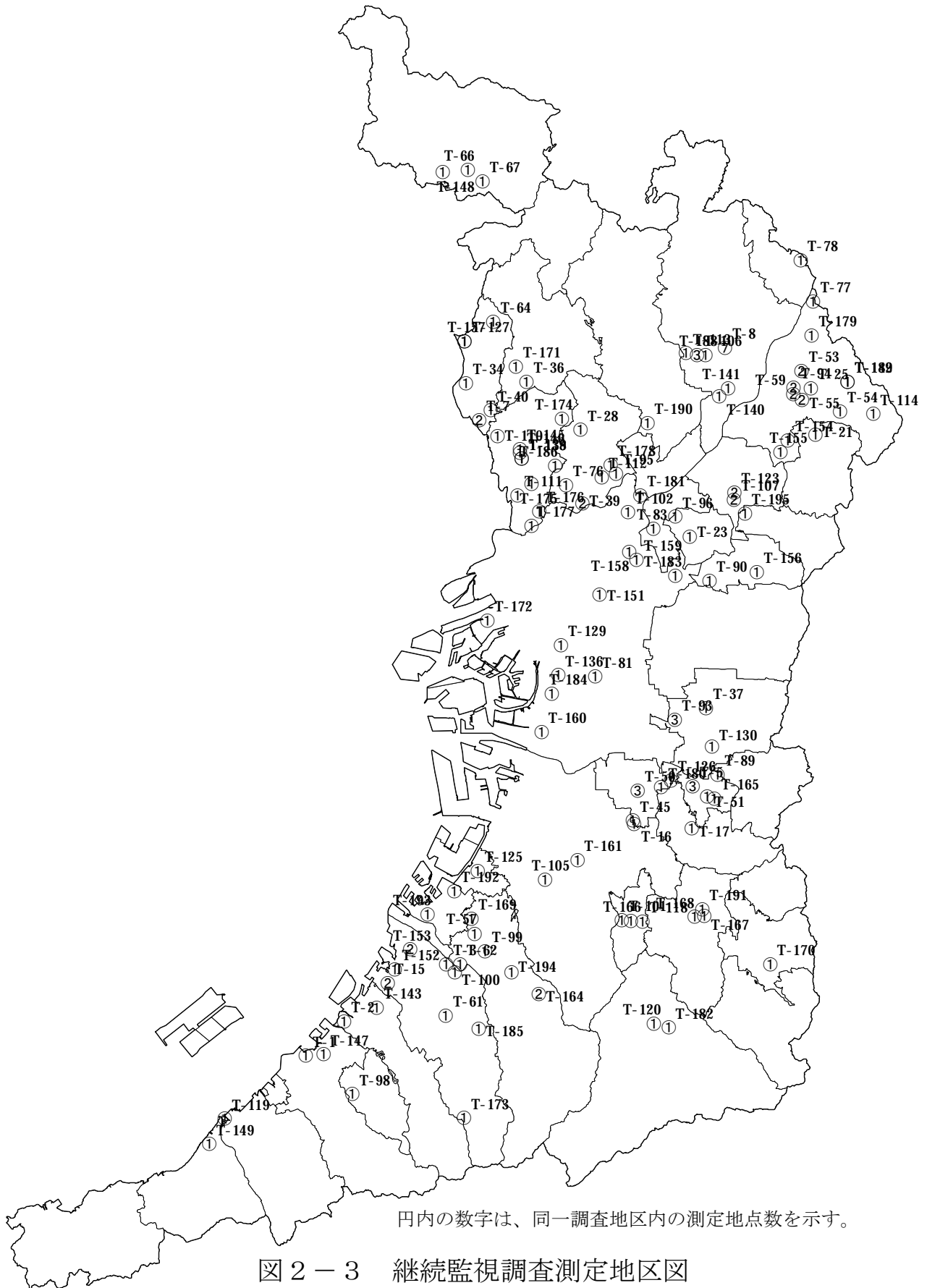


図 2 - 3 継続監視調査測定地区図
(平成 24 年度)

別表2-1

測定地点数及び測定機関総括表

(平成24年度)

測定機関	測定地点数			合計
	概況調査		継続監視調査	
	定点方式	ローリング方式		
大阪府	4	27	56	87
国土交通省 近畿地方整備局	0	0	4	4
大阪市	0	8	8	16
堺市	0	7	3	10
岸和田市	0	3	10	13
豊中市	0	6	10	16
吹田市	0	5	7	12
高槻市	0	3	14	17
枚方市	0	3	17	20
茨木市	0	4	1	5
八尾市	0	3	6	9
寝屋川市	0	2	4	6
東大阪市	0	6	0	6
合計	4	77	140	221

別表2-2 測定地点一覧表 (概況調査(定点方式))

平成24年度

測定地点			測定項目																				測定回数	深度(Ⓜ)	井戸の浅深別	用途	測定機関									
図中地区番号	地区内番号	所在地	カドミウム	全シアン	鉛	六価クロム	砒素	総水銀	アルキル水銀	PCB	ジクロロメタン	塩化ビニルモノマー	四塩化炭素	1・2・ジクロロエタン	1・1・2・トリクロロエタン	1・1・1・トリクロロエタン	1・1・1・トリクロロエタン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	1・3・ジクロロプロペン	チウラム	シマジン						チオベンカルブ	ベンゼン	セレン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ふっ素	ほう素	1・4・ジオキサン		
F-3	1	富田林市 若松町西													○	○																2	2	浅	2	大阪府
	2	富田林市 若松町西													○	○																2	不明	浅	2	大阪府
	3	富田林市 若松町西													○	○																2	不明	浅	3	大阪府
F-4	—	交野市 私市			○	○																		○			○	○			2	—	—	—	大阪府	

注

- ・図中地区番号は、図2-1を参照
- ・地区番号F-1は欠番
- ・○印の項目について測定を行う。
- ・※印、アルキル水銀については、総水銀が検出された地点について測定を行う。
- ・地区内番号の欄は、同一地区において複数の測定地点を有する場合の整理番号を表す。
- ・井戸の浅深別は、浅（浅井戸）、深（深井戸）、不明 を表す。
 不圧帯水層から採取する井戸を浅井戸、被圧帯水層から採取する井戸を深井戸とする。ただし、帯水層が不明な場合は井戸深度30m以下の井戸を浅井戸、30mを超える井戸を深井戸とする。
- ・用途欄の番号は、1（水道水源）、2（一般飲用）、3（生活用水）、4（工業用水）、5（その他）を表す。

別表2-3 (2) 測定地点一覧表 (概況調査(ローリング方式))

平成24年度

測定地点			測定項目																									測定回数	測定機関						
図中地点番号	所在地		カドミウム	全シアン	鉛	六価クロム	砒素	総水銀	アルキル水銀	PCB	ジクロロメタン	四塩化炭素	塩化ビニルモノマー	1・1・1・ジクロロエタン	1・1・1・ジクロロエチレン	1・1・2・ジクロロエタン	1・1・2・ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	1・3・ジクロロプロペン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ	ベンゼン	セレン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ふっ素			ほう素	1・4・ジオキサン				
62	枚方市	穂谷	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	枚方市
63	茨木市	大岩	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	茨木市
64	茨木市	花園	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	茨木市
65	茨木市	五日市	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	茨木市
66	茨木市	横江	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	茨木市
67	八尾市	楠根町	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	八尾市
68	八尾市	水越	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	八尾市
69	八尾市	安中町	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	八尾市
70	寝屋川市	緑町	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	寝屋川市
71	寝屋川市	讃良西町	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	寝屋川市
72	東大阪市	俊徳町	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	東大阪市
73	東大阪市	長田西	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	東大阪市
74	東大阪市	大蓮東	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	東大阪市
75	東大阪市	加納	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	東大阪市
76	東大阪市	玉串元町	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	東大阪市
77	東大阪市	西石切町	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	東大阪市

注 ・ 図中地点番号は、図2-2を参照
 ・ ○印の項目について測定を実施する。
 ・ ※印は総水銀が検出された場合、当該地点のみ測定を実施する。

測定方法、環境基準値等一覧表

区分	測定項目	測定方法	環境基準値 (mg/L)	報告下限値 (mg/L)
環境 基準 項目	カドミウム	昭和46年12月28日付け環境庁告示 第59号(以下「告示」)別表1 " 55.2 " 55.3 " 55.4	キレート樹脂イオン交換(告示付表(以下「付 表」) 8. 必要に応じて実施) 電気加熱原子吸光法 ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.003 以下 0.0003
	全シアン	JIS K 0102 38.1.2及び38.2 " 38.1.2及び38.3	ピリジン-ピラゾロン吸光光度法 4-ピリジンカルボン酸-ピラゾロン吸光光度法	検出されないこと 0.1
	鉛	JIS K 0102 54.1 備考1 " 54.2 " 54.3 " 54.4	溶媒抽出フ列ム原子吸光法 電気加熱原子吸光法 ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.01 以下 0.005
	六価クロム	JIS K 0102 65.2.1 " 65.2.3 " 65.2.4 " 65.2.5	ジフェニルカルバジド吸光光度法 電気加熱原子吸光法 ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.05 以下 0.02
	砒素	JIS K 0102 61.2 " 61.3 " 61.4	水素化物発生原子吸光法 水素化物発生ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.01 以下 0.005
	総水銀	付表1	還元気化原子吸光法	0.0005 以下 0.0005
	アルキル水銀	付表2	溶媒抽出ガスクロマトグラフ法	検出されないこと 0.0005
	P C B	付表3	溶媒抽出ガスクロマトグラフ法	検出されないこと 0.0005
	ジクロロメタン	JIS K 0125 5.1 " 5.2 " 5.3.2	ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析法 ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ法(FID)	0.02 以下 0.002
	四塩化炭素	JIS K 0125 5.1 " 5.2 " 5.3.1 " 5.4.1 " 5.5	ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析法 ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ法(ECD) ヘッドスペースガスクロマトグラフ法(ECD) 溶媒抽出ガスクロマトグラフ法(ECD)	0.002 以下 0.0002
	塩化ビニルモノマー	平成9年3月13日付け環境庁告示第10号付表	ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ質量分析法	0.002 以下 0.0002
	1,2-ジクロロエタン	JIS K 0125 5.1 " 5.2 " 5.3.1 " 5.3.2	ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析法 ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ法(ECD) ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ法(FID)	0.004 以下 0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	JIS K 0125 5.1 " 5.2 " 5.3.2	ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析法 ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ法(FID)	0.1 以下 0.002
	1,2-ジクロロエチレン	(シス体) 同 上 JIS K 0125 5.1 (トランス体) " 5.2 " 5.3.1	同 上 ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析法 ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ法(ECD)	シス体トランス体の和が 0.04 以下 0.002
	1,1,1-トリクロロエタン	JIS K 0125 5.1 " 5.2 " 5.3.1 " 5.4.1 " 5.5	ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析法 ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ法(ECD) ヘッドスペースガスクロマトグラフ法(ECD) 溶媒抽出ガスクロマトグラフ法(ECD)	1 以下 0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	同 上	同 上	0.006 以下 0.0006
	トリクロロエチレン	同 上	同 上	0.03 以下 0.002
	テトラクロロエチレン	同 上	同 上	0.01 以下 0.0005
	1,3-ジクロロプロペン	JIS K 0125 5.1 " 5.2 " 5.3.1	ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析法 ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ法(ECD)	0.002 以下 0.0002
	チウラム	付表4	高速液体クロマトグラフ法	0.006 以下 0.0006
	シマジン	付表5の第1 付表5の第2	溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ質量分析法 溶媒抽出・固相抽出ガスクロマトグラフ法(FTD)(ECD)	0.003 以下 0.0003
	チオベンカルブ	同 上	同 上	0.02 以下 0.002
	ベンゼン	JIS K 0125 5.1 JIS K 0125 5.2 JIS K 0125 5.3.2	ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ質量分析法 ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析法 ポーラグラフ-ガスクロマトグラフ法(FID)	0.01 以下 0.001
	セレン	JIS K 0102 67.2 JIS K 0102 67.3 JIS K 0102 67.4	水素化合物発生原子吸光法 水素化合物発生ICP発光分光分析法 ICP質量分析法	0.01 以下 0.002
	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	(別表1-3) 特殊項目欄 参照	(別表1-3) 特殊項目欄 参照	10 以下 0.08
	ふっ素	JIS K 0102 34.1 JIS K 0102 34.1 c)(注 ⁶)第三文を除く。 及び付表6	ランタン-アリキリンソングレキノン吸光光度法 イオンクロマトグラフ法	0.8 以下 0.08

区分	測定項目	測定方法		環境基準値 (mg/L)	報告下限値 (mg/L)
環境基準項目	ほう素	JIS K 0102 47.1	メチルブルー吸光度法	1 以下	0.02
		JIS K 0102 47.3	ICP発光分光分析法		
		JIS K 0102 47.4	ICP質量分析法		
環境基準項目	1,4-ジオキサン	付表7	活性炭抽出ガスクロマトグラフ質量分析法	0.05 以下	0.005

備考

- 1 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。また、アルキル水銀及びPCBについては「検出されないこと」をもって基準値とされているので、同一測定地点における年間の全ての検体の測定値が不検出であることををもって基準達成と判断する。さらに、総水銀に係る評価方法は備考3のとおり。
- 2 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。
- 3 総水銀に係る基準値について年間平均値として達成、維持することは、同一測定点における年間の総検体の測定値の中に「定量限界値未満（以下「ND」という。）」が含まれていない場合には、総検体の測定値が全て**0.0005mg/L**であることをいい、NDが含まれている場合には、測定値が**0.0005mg/L**を超える検体数が総検体数の**37%**未満であることをいうものとする（昭和49年12月23日付け環水管第182号）。
- 4 有効数字を2桁とし、3桁目以下を切り捨てる。
- 5 報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。
- 6 硝酸性窒素と亜硝酸性窒素の濃度は、規格**43.2.1**、**43.2.3**又は**43.2.5**により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数**0.2259**を乗じたものと規格**43.1**により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数**0.3045**を乗じたものの和を求めた後に、上記の4及び5の桁数処理を行う。
ただし、硝酸性窒素と亜硝酸性窒素の測定値の何れか一方が報告下限値未満の場合は、その報告下限値未満に代えて報告下限値の数値を測定値として扱う。（報告下限値(mg/L)：硝酸性窒素 **0.04**、亜硝酸性窒素 **0.04**）
- 7 **1,2-ジクロロエチレン**の濃度は、規格**5.1**、**5.2**又は**5.3.2**により測定されたシス体の濃度と規格**5.1**、**5.2**又は**5.3.1**により測定されたトランス体の濃度の和を求めた後に、上記の4及び5の桁数処理を行う。
ただし、シス体とトランス体の測定値の何れか一方が報告下限値未満の場合は、その報告下限値未満に代えて報告下限値の数値を測定値として扱う。（報告下限値(mg/L)：シス体 **0.002**、トランス体 **0.002**）
- 8 平均値の計算に当たっては、有効数字を2桁までとし、その下の桁を四捨五入する。その場合、報告下限値の桁を下回る桁が残る場合は四捨五入して報告下限値の桁までとする。
- 9 報告下限値未満の数値については、報告下限値の数値として取扱い、平均値を計算する。